

# 麻生リトル・ラグーマン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

## 梅雨明けを促した子供たちの熱い合宿

夏合宿担当 重住 英彰

夏合宿の日程は、5年前から「海の日」の連休に開催される菅平ミニラグビーチャンピオンリーに参加することになって以来、「7月第三月曜日の直前の金曜日から」となり、最早で12日から最遅では18日が出発日となりますので、毎年、梅雨明けのタイミングが心配です。

今年も13日の出発日には九州豪雨の間接的な影響が懸念されていましたが、菅平は真夏の日射しながら涼しい高原気候でグラウンドの芝生もベストコンディション、練習には最適な環境でした。とても梅雨明け前とは思えず、菅平ではリトルラグーマンの熱い息遣いが雨雲を寄せ付けませんでした。

### [練習]

夏合宿の練習に先立ち三浦校長から、「夏合宿をとおして、いつでも誰とでも挨拶が出来るようになろう」と目標が掲げられました。

初日の14日は終日練習ですので、各学年のコーチは盛り沢山のメニューの消化を目指しました。各学年の練習内容の詳細な説明は各チームに任せますが、全体の印象は以下のとおりでした。

- ・夏合宿に初参加の3年生では、事前にコーチ陣によって入念に準備されたメニューに従い、極めて密度の濃い練習が行われました。
- ・4年生では、コーチ間で一週間前から指導方法について熱心な意見交換が続けられ、かなり高度なプレーが組み込まれたメニューが展開されました。
- ・5年生は前週のリコーカップでの反省にもとづいた具体的な課題が明示され、その解決に向けて熱の入った練習が続けられました。
- ・小学部最後の夏合宿となる6年生では最も激しい練習を実施するために、まずコーチ自身が自ら厳しい姿勢で臨み、子供たちと真剣勝負を挑みました。
- ・また特別参加の低学年は夏の菅平高原を楽しみながら上級生にも劣らない激しい練習を行いました。

### [菅平ミニラグビーチャンピオンリー]

麻生は、低学年1チーム、中学年4チーム、高学年3チームの延べ8チームで第6回交流大会に臨み、日頃は接点のない各地のRSと合計19試合の対戦を楽しみました。

神奈川県内の試合とは異なり、本大会は低中高学年という区分けですので、試合直前まで相手チームの学年構成が分かりません。したがって、高学年と対戦した3年生や5年生は劣性に晒され大敗することもありました。しかし身体が大きくスピードに勝る相手との力試しから得ることも多かったはずで、一方で下級生と戦った4年生や6年生は余裕をもって大勝することもありました。ここでも上級生は防御に手を抜かず、基本どおりにミスなく攻め続けなくてはならず、完封勝利を求めらるのも大変なプレッシャーです。

今回は全学年で11勝7敗1分の戦績でした。個別の試合結果は巻末の資料を参照ください。この中で、異なる学年との対戦で大勝大敗した7試合(3勝4敗)を除くと、同学年との対戦した合計12試合の結果は、8勝3敗1分でした。

### [麻生RS恒例行事]

最終日は子供のみならず父母やコーチが参加する行事が盛り沢山です。

### 〈コーチ戦〉

まずはコーチ紅白戦です。今年も三浦組(柿色)と牧野組(赤色)の対決です。両チームに分かれたコーチは、いずれも指導者として子供に模範プレーを見せてやろうと高い志しを抱いて試合に臨みましたが、いざホイッスルが鳴ると誰もが勝利への貪欲な気迫に燃えてボールに参集し肉弾戦が展開されました。

前半は米元(柿)、飯島(赤)両氏が鋭く相手陣内に切り込んで華麗なトライを決め、互角の同点で折り返した。後半早々に萩原氏(柿)が相手バスの一瞬の隙を逃さずインターセプトして見事なトライを決めたが、終盤の激しい逆襲の末に古田氏(赤)が右隅に再び同点のトライを押し込みました。

この迫力が再現されれば、多摩戦にもリベンジが可能だと思えます。  
(試合経過は巻末資料を参照ください)

### 〈学年対抗戦〉

次は、3年生 vs 4年生、5年生 vs 6年生の学年対抗戦です。総合力で勝る上級生は大勝する潜在力を有しているのですが、いざ下級生と対面すると受け身になってしまい激しい当たりも遠慮気味に成りがちです。一方、対戦で失うものがない下級生は捨て身でがむしゃらに上級生に挑むので、学年対抗戦が意外と接戦になることもあります。

しかし今年の4年生、6年生は、いずれもいささかの気の緩みもなく全力で下級生を粉砕し、見事に完封しました。しかし、その内容は決して一方的な展開ではなく、下級生の果敢なタックルやオーバーが試合を盛り上げ、緊迫した攻防が観客に感動を与えました。

### 〈6年生親子戦〉

3回目となった6年生の親子対決戦は年々白熱を帯びています。今年は、父が8人、母は10名を超える参加があり、チーム編成を「常時、父6名+母3名」とし、同時に特別ルールとして「父は子供にタックル禁止」「子供は母にタックル禁止」と定めキックオフ。

前半は、まず大森父が親の凄みを発揮して先制トライを決めると、目を覚ました子供が反撃に転じて親に激しく当たりモールの脇を2本抜けて逆転。

後半は母の強力な防御もあり親子が互角の攻防を続けたが、親のペナルティから野川母が一気に俊足を生かし、追いつがる子供を振り切って左隅に華麗な同点トライを決めました。

終盤は子供が一方向的に攻め続けたが、9人の親による一糸乱れぬ防御が効を奏して再逆転を許さず、親子引き分けになりました。子供たち手加減した？

### 〈ランパス〉

夏合宿のフィナーレは汗と涙のランパスです。校長が蹴り出すボールを全員で確実にパスで繋ぎ、仲間の心をついて力強くトライを目指します。各学年のキャプテンが校長に対して「もう一本お願いします!」と体力の限界まで挑戦しました。

2年生は怖いもの知らずで挑戦を続け一気に8本をやりきりました。合宿に初めて正式参加した3年生は緊張気味ながら歯を食い縛って頑張った。人数の多い4年生はAとBが相互に競って限界を超える頑張りをみせた。勢いの強い5年生は6年生に負けずと底力を発揮しました。そして6年生は最上級生のプライドを胸に力強く、そして抜群のスピードでランパスを15本(往復)\*仕上げました。

\*15本(往復):100m×15×2=3000m

日大稲城 G400mトラックの7周半相当

そして最後は子供だけではなくコーチや父母も加わり総勢約150人でボールを繋ぎ、スクールの一体感を醸し出しました。

### 〈菅平賞〉

夏合宿の閉会式では、この3泊4日の期間中に最も頑張った子供の努力と成果を称え、校長から菅平賞を授与しました。

- ・3年生：無田 快  
タックルが上達し大きな声を出した
- ・4年生：安藤 雄也  
果敢なタックルとオーバーで牽引
- ・5年生：海老原 翔空  
一際大きな声を出し、パスも上達
- ・6年生：齋藤 祐太  
終始大きな声でチームを引っ張った

### [集団生活]

ラグビーの練習と並んで集団生活の体験も夏合宿の重要な目的です。子供たちはグラウンド以外では学年縦割りの8班に分けられ、6年生の班長の指揮の下で生活します。したがって班長の個性が班の特徴に影響を与えます。

今年の班長の性格を類型化すると、

- ・静かながらルールを重視した強力なリーダー
- ・自ら賑やかに班員の和を引き出すひょうきんリーダー
- ・下級生に自律的な主体性を求め開放型リーダー
- ・きめ細かい世話焼き型リーダー

などに分けられ、日々の行動において、集合時には「いつも一番のり班」と「遅刻常習班」に二極化し、また食事の後片付けでは「皆で手分け班」と「遅い人任せ班」など対照的な動きを示しました。

このような状況において、5年生は班長を補佐する名アシスタントを果たすか、あるいは黙々と班長に追随しながら班の取りまとめを気遣いました。これらを受けた4年生は上級生の動きに右往左往しながらも、むしろ戸惑う3年生の相談手を務めました。そして3年生はなかなか緊張感が抜けないながら、いつも礼儀良く、何事にも真面目に取り組み、その初々しい態度が好感を持たれました。

### [病気・怪我]

事前の安全研修会で熱中症の防止を学んだにも拘らず子供に熱中症を発生させてしまい、直ちに給水方法を見直しました。さほど気温が高くないでも子供たち全員一律に給水を施していたが、保水状況は個人差が大きく、コーチによるよりきめ細かい観察が必要であることを再確認しました。

また練習や試合の中では怪我はつきものです。互いにカー杯当たり合うのですから痛い思いは避けられません。もちろん安全指導の一環で怪我をしない正しい姿勢を徹底して教えていますが、いざ練習や試合が始まれば軽度の打撲は数知れず、今年も手の指の骨折が出てしまいました。しかし、これらの怪我については迅速かつ的確な事後処理が施され大事には至りませんでした。

これらに加え、前夜の睡眠不足のために練習中に気分が悪くなった子供が少なからず発生しました。これらはグラウンド外での健康管理の対象であり、「食事を大量に食べ残していないか」、「夜更かしをして寝不足になっていないか」とコーチが連日手分けをして観察しています。しかし80人近い子供の各人別の健康状態を詳細に把握することには限界があり、より効率的かつ効果的な健康管理の方法について再考することを課題とします。

[総括]

今年の夏合宿は梅雨明け前にも関わらず好天に恵まれ、事前に企画していた練習やジャンボリーでの対外試合、さらにバーベキューや花火大会、そして最後のランパスに至るまで全ての行事を予定どおりに実行できました。

しかし夏合宿が成功した理由は天気ばかりでなく、チーフコーチにはグラウンドで子供の練習に専念してもらい一方で多くのコーチや父母の方々に多種多様な役割を担って頂いたお陰です。

とりわけ夏合宿担当の5年生のお母様方は限られた人数ながら4月から入念に準備を重ねて来られ、期間中には他学年のお母様方の力強い協力も得て、実に手際良く各々の職務を全うされていました。この場を借りてお礼申し上げます。

このように毎年同じプログラムが繰り返されているように見えますが、実は毎年新しい環境変化への対応等に力を注いでいます。例えば春のバス惨事を受けて貸切りバスの契約がより安全重視に改善されたり、ジャンボリーの参戦方法について意見を取りまとめたり、今年で16回目になる山光館での合宿の在り方についても常に評価を見直すなど、子供たちにとってより快適な夏合宿を実現するために改善の努力を続けています。

それでも毎年新たな課題が残り、関係者は一年中その解決に向けて悩みが絶えません。今年も反省会を経て、もう来年の準備開始です。まだ今年の夏合宿の記憶が鮮明な内に建設的なご意見をお寄せください。

以上

## 大人のための夏休みの宿題

～ 合宿でわかった課題を克服するスケジュールはできていますか？ ～

技術指導担当 大森 昇

夏合宿では、どの学年も数試合を戦いました。全ての試合で勝てれば気分が良いのですが、負けてモヤモヤとした気分下山した方も多いのではないのでしょうか？

「なぜ勝てなかったのか？」を知り、負けた原因を練習で克服しないと県大会の大切な試合でも同じ原因で負けてしまいます。ついこの間の負けた試合のビデオを見るのはあまり気分のよいものではないかも知れませんが、県大会で本気で優勝をめざすならば、目をそらさずに何回も見なくてははいけません。

この時、ビデオを見るとき視点(どこを見るか)は、大きくは2つです。

(攻撃の課題) どこで、誰の攻撃が相手に止められているか？

(防御の課題) 本当はどこで誰が相手の攻撃を止められるはずだったか？

いくつかの「大きな課題」が見つかると思います。今夏の試合で気付いた事例では、「競り合いがうまいキックオフへの対応」、「2次フェイズでのタックル」、「下げられたときのブレイクダウン」などが挙げられます。1チームあたり5つくらいの課題が見つかるのではないのでしょうか？

まず、やらなくてはいけないのが、「分析と仮説」ですね。

先ほどの「キックオフ」を例にとると、いくつかの基礎的なチェック項目があります。

- ① 「キックが最も飛んでくる可能性が高いゾーンはどこか？」の分析はできているか？
- ② ①のゾーンの后方(ゾーン中央ではないところがミソ)に「ダイレクトキャッチ」ができるプレーヤーを配置し、ダイレクトキャッチができていますか？
- ③ キャッチャーからボールを受けるランナーはキャッチャー毎に決まっています、スペースに走りこみ、トップスピードでボールを受けていますか？
- ④ ③のプレーヤーからボールを受けるリターナーは決まっています、トップスピードでボールを受け、キック地点(ハーフウェイライン)を超えていますか？

ビデオを繰り返しチェックして「分析」します。分析の結果、原因として、例えば②のチェック項目で NG(ダイレクトキャッチができない)であれば、どのようにプレーヤーを配置すれば、最後に良い結果(=キック地点までリターンする)が得られるかを考え、「仮説」を組み立てます。

「仮説」が出来上がったなら、「仮説を実現するための訓練」=「練習」です。出来ないことを出来るようにする訳ですから、いきなり実戦形式で練習しても効果は薄いですね。「ステップ分け」によって、少しずつ難しくなるように練習を組み立てなければなりません。難度アップにもさまざまな「味付けの方法」があります。

- ・ はじめはゆっくり ⇒ 徐々に速度アップ ⇒ 最後はトップスピード(実戦同様)
- ・ はじめは防御役なし ⇒ 徐々に防御人数アップ ⇒ 最後は同人数(実戦同様)
- ・ はじめはキャッチだけ ⇒ 次はランナー/リターナー ⇒ 最後はキック地点到達

子供達の状態を見極め、残されている練習時間との兼ね合いで決めていきます。指導陣の「知恵と工夫」の見せ所です。「自分には関係ない」とばかり、各学年の技術コーチに任せっきりになっていませんか？全てのコーチ各自が主体的に考え、活発に意見を出し合うと効果的な練習計画・時間配分がまとまり、実際の練習現場でも効果的な指導・声かけができると思います。

幸いなことに「県大会」の前に課題が克服できたか否か、を確認するチャンスがあります。「秋季交流戦」ですね。秋季交流戦までにあと何回練習が出来るか？あと何時間あるのか？を数えていくと、あまり時間がないことが分かります。どの課題を、どのように克服していくか？の計画ができていない学年はありませんか？

子供たちの基礎能力に大きな差はない。勝てないのはコーチの努力・勉強不足なのでは？とご父兄から後ろ指を指されないようにコーチ陣は踏ん張らないといけません。

「今年の秋季交流戦がいつ行われるか、わからない？」 あなたがもしコーチなら、「切腹もの」です。麻生RS がスクールとして秋季交流戦をいつ行おうとしているか、のアクションは把握しておきましょう。かなり早い段階から、具体的な日程をめぐる「動き」は始まっています。まずはここからですね。

本当に必要なことは、絶対に勝て！と言うことより「どうやって」勝つのかを考えて指導することであり、ガンバレというなら「どこで、どのように」具体的にかつ理論的に 頑張るのか指導することではないだろうか？ （宿沢広朗）

## DAGS

### 「菅平の夏」

中学3年 嘉数 泰盛

神奈川 DAGS として最後の夏合宿が始まった。今年は最高学年！いつもより気合いが入った！初日海老名戦、二日目シルクス戦、三日目同志社戦それぞれ結果はともかく全力を尽くした。いろいろ反省することもあるけど、秋の県大会に向けて調整していきたいと思いました。そして、僕たちを鍛えてくれた沢山のコーチの方々に感謝します。3年はこのメンバーで、試合をするのも残りわずかなので、しっかり一戦一戦を思いっきり全力をつくしたいと思う。

### 夏合宿

中学部2年 大森 鐵乃・

今年の夏合宿は、僕の中でもとても大きなものとなった。いつもは週に一度だけしかない練習も、この合宿では3週間分もある。3週分の練習を連続してやるのだから当然キツイ。それに、いつもの練習とは比べものにならない苦しさ、痛さ。だが合宿とは、そもそも痛くて、苦しいのが当たり前だ。だからと云って、一人でこの痛さ、苦しさを乗り越えることはなかなか難しい。そんな時にこそ、僕は「声」が大事だということを、この合宿で改めて気がついた。実際に、僕は仲間から掛けられた「声」で合宿を乗り越えることができた、といっても過言ではない。それほど、「声」というものは大切な、大きな力を生み出すものなのだ。合宿で「声」という大きな存在を改めて気付き、「声」に助けられたので、これからの練習も「声」をたくさん出して、どんどん仲間を元気づけていこうと思う。

### 「2年生の合宿」

DAGS2年 小山田 弦

ぼくは、ラグビーの合宿にいった。場所は菅平。毎回変わらない亀屋ホテルだ。1日目の練習は体力作り。午後からだから少しは楽かと思っていたが、甘くはなかった。「トウシバ」という、タックルして・寝て・おきてまた、タックルして・寝て・おきて、それをくり返す練習だ。それが3セット。1日目から足とこしが痛くなってしまった。2日目。体力と技術の強化。そして試合をした。シップ薬でなんとか痛みのとれた体がまた動けなるまで練習。でも、午後の試合は勝つことが出来た。試合後に又、体力強化の練習のくり返し。3日目。朝から体力強化のくり返し。そして「タックルフット」というメニューで基礎を学び、午後試合に臨んだ。相手は大阪No.2 という強豪。勝つことが出来なくて多くの課題を残した。練習でやってきた体力で負けたのがとてもくやしかった。そして4日目。最後の体力作りの練習をした。今日は、昨日の試合を思い出して走り込みをあきらめないで頑張った。次くるときは、大坂No.2をたおしたい。待っている最後の合宿！！

### 夏合宿の感想

DAGS1年 小作 航平

今年の合宿の試合目標は、できるだけ相手のボールに絡んでマイボールにするか、パイルアップにすることでした。3日目の八王子戦にフルで出ることができて、その時は5回ぐらい相手ボールに絡んでマイボールにできたので、一応目標は達成できたと思います。次の試合でも目標を立てて、達成できるように頑張りたいです。悪かったところは、集合時間に遅刻はしなかったけど、準備が少し遅れて練習開始時間に間に合わなかったところがあったので、もっと手際よく準備するように反省して直したいです。



## 『夏合宿を終えて』

DAGS1年 白川 幹斗

僕のこの合宿での目標は、足を速くすることでした。

そのため、練習では走ることを頑張りました。東芝や外周では1位をとることができたので、よかったです。

僕の試合での目標は、低くタックルすることと、オーバーに早く入ることでした。でも、うまくいく日とあまりうまくいかない日がありました。これからはうまくいかない日でも、うまくいくように頑張りたいです。

最後の試合は、タックルがかなり下に入ることができてよかったです。でも、体の大きい人に下にタックル入ってもバックができてなくて倒せなかったのが悔しかったです。

最後に、次のミニ合宿ではさらに気合いを入れ直して練習をして、秋の大会ではいい試合をして良い結果を残せるように頑張りたいです。

3年生の先輩たち、最後の合宿ありがとうございました。

## 初めての夏合宿

DAGS1年 山本 凌介

今年の DAGS の合宿は、僕にとって初めての夏合宿でした。

この合宿で得たことがいっぱいあります。その中で、練習で得たことはタックルの時、しっかり体を相手に当てれば痛くないなど、練習以外の時では、食事をしっかり取らないとその次の日に力を発揮できなくなってしまうなど、練習の時だけではなく練習以外のところでもたくさん得るものがありました。

そして、この合宿で得たことを活かしてこれからの試合や県大会でいい成績を残せるようにしたいです。

## 「 in 菅平 」

中学3年 嘉数さゆり(母)

コーチの皆様、今年も熱いご指導ありがとうございました m(\_)\_m

いよいよ旧麻生として、神奈川 DAGS の生徒としては、菅平へくるのが最後の年となってしまいました。寂しい~(>.<)

菅平は、ラグビー合宿の他サッカーや陸上、オリンピック選手までもが合宿をされ、沢山のスポーツ選手が全国から集まり本当に夏は活気があります！次男の泰盛は、この合宿で 10 回目突入参加し続けていますが、母も同じイヤ長男も入れるともう 10 回以上は参加しているでしょう。是非、まだ菅平を知らないママやパパがいましたら、「間近で見る子どもたちの頑張り、コーチの熱いご指導」を見に行っておあげてください！

そして、こんなに水も空気も景色もキレイな菅平は、親の私も癒されます。

今年も子どもにTシャツを購入しました。聞き慣れた言葉ですが、今のこれからの息子へ送ります。

☆ 心技体 ☆

熱くなれ心

磨き抜け技

鍛え上げろ体

最後に、3 年旧グリーン旧麻生のお母様方、合宿お疲れさまでした。親しくなれましたこととても嬉しく思います。そして、小坂コーチ他沢山のコーチの皆様、お疲れの中今回は帰り時間も 関越道事故で大渋滞となり、倍の時間をかけての帰宅、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました！今後ご指導宜しくお願い致します m(\_)\_m

## 6年生



「2012年 菅平夏合宿を終えて」

6年生 チーフ 小作 紀昭

参加されました皆さん、大変お疲れさまでした。  
5年生のご父兄の皆さん、合宿のサポート有難うございました。

1年生の時の初合宿、牧場に虫取りに行き、2年生では滝で涼んだり…懐かしく思います。  
そして今年は麻生ラグビースクールの最高学年として6回目。  
思い深い合宿となりました。

全員が後輩の手本となること。  
チームワークの意識を高めること。私の目標として参加しました。

目標に掲げながらも私の声掛け、サポート、意識付けが不足し反省として残ります。  
来年の課題として、前向きに改善を図ります。(班長の皆、有難う！)

きつい練習があっても目標を持って実現できてこそ、お楽しみの日曜のBBQ、花火が最高に楽しく、頑張った分こそが思い出となると思います。  
何か自信が付けることができる時間が菅平には必ずあると思います。

日曜日のジャンプリーでは4年生の時に対戦した布施に大敗を喫し、強いチームの前に出る圧力を感じました。  
(結果:5戦/4勝1負)圧倒された思いがあります。

4回目の菅平賞の選考では最後の最後まで悩みましたが、最後のランパスまで声を出し続けた齊藤裕太が2度目の受賞(チームコーチ賞は川原奨平、伊藤大吉)をしました。

6年生の恒例と成りつつある親子試合では、ご父兄のほぼ全員の参加が実現し、子供達の成長をご父兄は感じて頂けたと思います。(皆さん、有難うございました。)

次はニ合宿。県大会に向けては、彼らの自主性を意識して、活動を進めたいと思います。  
6年生コーチの皆さん、残り半年の時間、精一杯やり切りましょう！ご父兄の皆さん、子供達全員のパパ、ママとしてサポートをお願いします。

### 「絶対勝つぞ」

6年生コーチ 武井 智之

小作組の小学生最後の夏合宿も無事終了しました。今年の菅平は爆発的に暑くはなく、また雷雨におびやかされることなく有意義な練習ができました。きっと、海の向こうから向野コーチが見守ってくれたおかげでしょう(かな?)

子供達も、生まれて始めてというぐらい怒鳴られていました(三浦校長から)そして、涙ぐみながらも途中であきらめることなく最後まで声を出し走りきりましたね。苦しい思いをした分「勝ちたい」気持ちも強くなったのではないかな。

その気持ちをチーム全員で出し続け県大会で勝ち続けましょう。

普段の練習から合宿まで支えていただいたご父兄にお礼を申し上げます「ありがとうございます」

### 「2012合宿を振り返って」

6年生コーチ 田中孝太郎

ラグビー経験もなく、ルールも知らない状態でコーチに就任、しかもいきなり6年生のコーチを買って出て1ヶ月足らずで、合宿に参加。まずはひとりひとりの顔と名前を覚えることからスタート。子供たちと同じ目線で、走る、ランパス、ショットガン とにかく一緒に汗を流すことから、仲間になれるようになることから、自分なりに頑張ってみました。

この合宿を通じて感動したことは、子供たちが、他の仲間の応援を本当によくやっていること、これがラグビーのすばらしさなんだと、子供たちから、教えてもらいました。ありがとう 感謝！感謝！感謝！

### 「さらに上を目指したいなら」

6年生コーチ 毛利 昌康

今大学1年の息子が小学3年のときに始めて麻生ラグビースクールの夏合宿に参加し、5、6年連続して参加してきたのだが、ここ数年間は参加できない状態でした。今回久しぶりに参加してみて、夏合宿は改めて楽しいものだと思い知らされた。毎年来るべきだ。本当にすばらしい。

合宿を全体としてみれば、6年生は良くがんばった。ほめてあげたい。しかし、上には上がいる。一段と高いレベルを君たちが目指しているのを感じたので、あえて少しきびしめに、気がついたことを書かせてもらいます。

1) まずは三浦校長が一番強く言っていたこととですが、練習時間の中で、本当に全力でやる時間はほんのわずか。10から20パーセントくらいで、1時間の練習の中で5分か10分くらいだ。この短い時間に力を出切るかどうか勝負。多くの子供はまだ全力を出しているような演技をしているだけであった。ここの集中度を上げないと、厳しい戦いには勝てない。

2) タックルでもモールやラックに行く体当たりでも体の中心で真正面から相手より低い姿勢で当たらないと効果が出ない。それに続く次の攻めで負けてしまう。もっと全力でしかも良い姿勢で積極的に当たってほしい。あたりで負けていたら、いくらすばらしい作戦を立てても勝てない。

3) 走るスタミナやスピードはかなり良くなってきている。大きな声を出してパスをもらうこと、パスをしてもすぐパスした味方をフォローして追いかけていくことが合宿の後半にはだいぶん出来るようになり、試合でも見せてくれた。これを、さらに徹底してほしい。

4) 全員が相手と味方がどういう状態になっていて、自分がどう動けばよいかを分かるようになってほしい。ここがラグビーの本当の難しさでもあり、楽しさでもあるのだから。

全力でやればやるほど、その後の結果が楽しいものになり、大きな感動を得ることが出来る。さあ、これから小学生の最後の県大会に向かって一緒にがんばっていこう。

## 「さあ県大会へ！」

6年生コーチ 山中 淳郎

6年生の皆さん、夏合宿は全て出し切れましたか！小学校生活最後の夏合宿はそれぞれが目標を持って臨みましたね。コーチは残念ながら初日の練習しか出られませんでした、皆が自分が立てた目標に向かって努力している姿をハッキリと確認できたことが嬉しかったです。例え 100%達成ではないかもしれないけど努力したことで確実に皆の力は上がっています。

早いもので 9 月末からは県大会が始まります。いよいよ最後の県大会ですね！昨年までの悔しさを繰り返さないように毎回の練習に集中して取り組みましょう。夏休みや交流大会などを除くと県大会までの練習回数は6、7回しかありません。20人全員の気持ちがひとつになることができればこの残された時間でも更なる成長ができます。“まず自分が声を出す！” “まず自分がやり切る！”ひとりひとりが引っ張る気持ちを持って最高の準備をしていこう！コーチたちも全力でサポートしますので。

## 「最後の夏合宿」

6年生 安藤 慎吾

今回の小学校最後の合宿で、ぼくは大きく分けて二つのことを頑張りました。

一つめは目標についてです。ぼくは合宿前に、サニアパークでの試合を全勝する、皆で声を出して盛り上げる、皆でつないでトライをとる、という三つの目標をたてました。試合を全勝することはできなかったけれど、残り二つは結構できたと思います。しかし、僕自身は声を出していないところもあったので、まだできると思います。

二つめは班長として皆をまとめることです。集合時間におくれないように、など頑張りましたが、最終日に五分おくれしてしまいました。

今回の合宿は去年よりもつらかったですが、力がついたと思います。これからも練習はつらいと思いますが、県大会に向けて頑張っていきたいです。

## 「声」

6年生 伊藤 大吉

今年は、最後の合宿でした。天気も暑くなくてよかったです。けがをした人もいたけれどみんなで最後までやりきれたのでよかったです。

ジャンボリーの試合では、勝っていても声がなく、負けているともっと声が無くなり集中力も無くなる。その日から紺チームは声を目標にした。あとは、フォローやチームを盛り上げることが目標になった。最後のランパスの時はみんなの声が出ていていつもより走れた。声の力はすごいと思う。チームの1人1人の心がつながり、集中力が増す。これからは、もっと準備運動の時から大きく声を出して練習中や試合の時も声を出したい。

週にたった一回の練習だけど県大会ファイナルカップそして卒業までノンストップでがんばります。

## 「最高学年の合宿」

6年生 井上 謙亮

ぼくのこの合宿の大きな目標は、サニアパークの試合の時、みんなでパスをつなぎトライを取ることでした。よくパスをつなぎトライを取ることが出来たので、大きな目標は達成出来たと思います。

小さな目標は、一番速くオーバーに入ってボールをこえることでした。目標としているオーバーが出来た時もあったし、良いプレーが出来なかった時もありましたが、一生懸命頑張りました。

合宿の最後の日渡部コーチに、「声はよく出ているから、もう少し考えて動こう。」とアドバイスをもらったので、これからは県大会に向けて、しっかり考えてプレーをして行きたいと思います。

### 「目標に向かって頑張った夏合宿」

6年生 大竹 竜矢

今年の合宿はとてもキツかったけど、頑張りました。タックルの時の姿勢を低くしたり、自分の目標にしていた声を出す事を特に頑張りました。

僕は今まで声が全然出せていなかったけど、合宿では沢山声を出せる様になったと思います。あと、タックルの時の姿勢はまだ高い時があったので低くする事を意識してやりました。

布施との試合では負けてしまった事がとても悔しかったです。

5年生との試合や親子試合では声は出せていたけど、タックルの姿勢が高かったので、常に姿勢を低くする事を意識する練習をしようと思いました。

夏合宿で出来る様になった事、出来なかった事をこれからの練習でもっと頑張りたいと思います。

### 「夏合宿を終えて」

6年生 大坪 勇太

僕が、この夏合宿で一番印象に残っている事は2日目のジャンボリーでの布施戦です。

僕の目標の一つは声出しでした。それなのに布施戦では、一杯点を入れられてみんな下を向いてしまい、大人しくなってしまうなど、色々な反省点がありました。僕はこの試合で相手の大きな声や気持ちの強さ、あと技術に圧倒されて、思ったプレーが出来なくてとても悔しかったです。

でも、布施には、せめてみんなで声出しだけでも負けずに出来ていれば、あんなに大差はつかなかったと思いました。だから、試合後の練習は凄く厳しかったけど、悔しさをバネに頑張りました。

布施と試合をして、自分達の出来ていない事を思い知らされたので、この気持ちを忘れずに県大会までの練習を頑張りたいです。

### 「夏合宿」

6年生 大森 公乃祐

今回の合宿は麻生ラグビースクールで最後の夏合宿だったので、コーチもそれなりに怖かった。1日目の練習から3日目の練習まで、すべてつらかった。しかし、3日目最後のランパスが終わったとき、3日間をやりきったのでうれしかった。

1日目は最初にサーキットをやった。合宿に参加した全学年全員でやった。6年生は「声が出ていない」「下の学年より遅くてどうする」などと言われ、何度も「アゲイン」になった。

サーキットが終わり、各学年での練習になったら「フォワード・パス」「ランパス」「ヘッド・ダッシュ」「タックル」などいろいろやった。やった練習のほとんどで「言われてからやるんじゃダメだ。やらされてやるのはつまらないだろう。自分達で考えてやれ。」と三浦校長やコーチに言われた。

2日目のジャンボリーの試合は、最初宿舍のグラウンドでアップして試合解会場に向かった。小作コーチから

「試合前のアップメニューを自分達で決めろ。コーチは手伝うだけだ。」

と言われ、自分達で決めた「対面パス」「コンビネーション」「ショット・ガン」をやった。試合では声を出してチームを盛り上げることが出来て、2試合と1ハーフを全部勝つことが出来た。自分たちから声を出して、練習も自分達で考えたので勝てたのだと思う。

3日目は親子試合と5年生との試合だった。親子試合は4人のお母さん達が入り、おもしろかった。5年生との試合は勝つには勝ったが、「6年生らしいプレーがない」と叱られた。

最後のランパス。最後の山光館グラウンドでやる練習になると思い、全力で走りきった。菅平賞はもらえなかったけど、最後のいい合宿だった。

## 「最後の夏合宿」

6年生 齋藤 裕太

今年で最後の夏合宿の目標は「オーバー」でした。

初日の午前の練習では思うようにできませんでしたが、でも午後の練習で良くなってきたので、次の日の試合に生かそうと思いました。

2日目の試合でオーバーがきれいにできました。そして久しぶりにトライができたのでとてもうれしかったです。

最終日は親子試合がありました。結果は引き分けでしたが互角に戦えて良かったです。

最後のランパスはとてもきつかったけど、最後までやれて良かったです。

最後の合宿で、菅平賞をもらったのが一番うれしかったです。この勢いで県大会で優勝するのが次の目標です。

## 「大きな目標達成」

5年生 佐藤 公亮

ぼくがこの夏合宿で覚えたことは、「自分からやるラグビー」ということです。これはコーチからたくさん言われていたことで、心に刻みながら合宿では練習にはげみました。それを意識すると合宿中、自分は変わったような気がしました。自分でもうまくなったような気がしました。タックルも前より入れるようになったし、自分からボールを持って走るということもけっこうありました。だから何かを意識してやると、うまくなると合宿で思いました。それともうひとつ覚えたことが、試合中や練習の時、それと宿にいる時も声を出すということです。声を出すとチームが盛り上がるし、仲間がボールをわたしてくれます。ぼく自身は、合宿前と合宿中を比べると、声を出す数が増えたなと思いました。宿にいる時もぼくは班のリーダーで、4年生や5年生をまとめなければいけないので、声を出すことが大切だと思いました。合宿は今年最後で、きつい時もありましたが、とても楽しい時もありました。最高の思い出を作れてよかったです。ありがとうございました。

## 「最後の合宿」

6年生 菅原 健人

今回の6年生最後の合宿での目標は、「みんなとパスをつないでトライする事」と「サインをかんぺきにする事」でした。この目標を達成できたのは合宿での試合でした。みんな試合前から声を出し合って、試合にいとめたからだと思いました。

みんなとパスをつないでトライする事は、声を出しつつ、ミスをしなないことが大事だと思いました。また、サインをかんぺきにすることは、どれも成功したので、良かったと思います。試合前から練習で声をいっぱい出していくことは、すごく大事だということをあらためて感じたので、これからも声を出して行きたいです。

そして、最終日の親子試合では、最初に親に一本取られてしまったけど、あまり落ち込まずに出来たと思いました。その後に、みんなでつないだボールでトライをとれたことがうれしかったです。

この合宿で出来た事を、ふだんの練習でも生かしていきたいと思っています。

## 「夏合宿で思ったこと」

6年生 寺田 大起

今年の合宿は今までで、一番きつかった。三浦校長とコーチと、DAGSのコーチがいろいろ教えてくれて、声をかけてくれてそれにしがたがった。

みんながやる気に燃えていて、毎日きつかった。

DAGSのコーチが「ボールを持ってあたる時は、姿勢を低くして、足を一步前にふみ出して、縦にあたるんだ」と教えてくれた。自分は今まで横にぶつかっていったというのがわかって、ジャンボリーの時に、言われたとおりにやったら、2トライ決めることができた。やったと思った。もつとがんばってやろうという気持ちになった。

夏合宿の経験を県大会でも生かしてトライを決めてみたい。そして優勝したい。

### 「最後の夏合宿」

6年生 中司 大也

最高学年としてのぞんだ夏合宿だったので、今までの合宿よりプレッシャーが大きかった。

ぼくたちの弱点は、FWは、オーバーへの入りが遅く、BKはディフェンスの時、面で守っていなかったり、オフェンスの時には小さなミスをすることがあった。何よりFW・BK関係なく声が出ていなかった。しかしこの合宿では個人としてもチームとしても成長したと思う。都留戦を終えて三浦校長が言われていた試合中に大きな声を出す事の重要性をさらに学んだ。

僕は試合中に指を怪我して、病院に行くことになってしまい、練習に最後まで出られなかった。つらい練習をしているみんなに申し訳ない気持ちと、くやしい気持ちで涙がこぼれた。

みんながこの菅平での気持ちを忘れずに県大会にのぞみ、絶対勝つ！！

### 「今年の合宿」

6年生 西野 響太

僕が今年班長になって思ったことは、六年生の真君と拓朗君と僕がふざけたことをしなかったので、合宿参加初めての三年生、四年生、五年生もふざけないでやってくれました。

練習では、斜めタックルやショットガンが少しくなりました。

大きな目標である、みんなが菅平賞を取ることはできなかったけど、低くタックルするという小さな目標は達成できたと思います。

### 「今年の夏合宿」

6年生 野川 真

僕は、小学校最後の夏合宿に、大きな目標と小さな目標の二つを意識して臨みました。

まず、大きな目標は、「下級生に積極的に声をかけ、手本になる」です。下級生が困っている時に、六年生が声をかけてあげれば、心強いと思ったからです。次に、小さな目標は、「接点で負けない」です。今までは、フォローが遅れ、先に越えられたりしたからです。この合宿では、接点で負けないことを意識することが出来、その結果、しっかりフォローに行け、接点で先に越えることが出来る様になりました。

大きな目標についても、班の下級生に積極的に声をかけることが出来ました。

今後は、夏合宿で学んだことを生かしながら、「県大会優勝」を目標に一回一回の練習を大切に努力していきたいです。

### 「最後の合宿での目標」

6年生 萩原 睦

今年の菅平の合宿は、ぼくにとってのさいごの合宿でした。

合宿前に六年生は大きい目標と小さい目標をたてました。

僕の小さい目標は、「低くて強いタックル」です。この目標は達成できました。ミニジャンボリーでは、一試合目と三試合目で達成できました。大きい目標は、「ディフェンスを強くする」です。同じく一試合目と三試合目でできました。一点もとられなかったからです。二試合目はギャップができてしまったことが良くなかったと思います。

僕がチームで一番成長したと思うのは声です。合宿前に比べてすごく声が出るようになったと思います。自分たちで声が出せるようになってチームを自分たちで盛り上げられるようになったので、チームが明るくなりました。

今年の合宿はすごくきびしくて苦しかったけれども、みんながんばっていたと思いました。この合宿できびしいことや苦しいことをみんなで乗り越えて、みんなががんばったと思います。

最後の合宿で学んだことを最後の県大会でいかしたいです。

### 「最後の夏合宿を終えて」

6年生 濱田 透唯

今年の夏合宿では、苦しいこと 楽しいことが たくさんありました。

その中でも一番苦しかったけど頑張ったのは、目標にも書いた声だしです。日大での練習でもコーチに「ハーフは声をだせ」や「指示の音が聞こえないぞ」とよく言われていたので合宿中は 声をだす事を心がけて過ごしました。

最後の ランパスが終わった後 コーチに「声がよくでてたぞ!!」と言われて すごくうれしかったです。

ぼくなりにもうひとつがんばった事は6年生として自分より下の学年のめんどろをみることです。みんなも協力してくれたおかげでトラブルなく楽しく過ごすことができました。

最後の夏合宿頭痛にはなったけど自分なりに精一杯がんばれてよかったです。いよいよ 秋には小学部最後の県大会この合宿でつけた力を出しきってチームの気持ちをひとつにして全勝優勝します！

### 「夏合宿で良かったこと」

6年生 真山巧也

ぼくは夏合宿に行く日が近づいてくると、行きたくない、いやだなあと感じていました。でも合宿で、ぼくはコーチとの試合で初トライを取りました。とても気持ちよかったです。真がボールをパスしてくれたからです。県大会でもたくさんトライを取りたいです。

### 「六年生の合宿」

6年生 宮澤 朋輝

六年生になつての合宿は三～五年の合宿とまったくちがいました。

五年まで六年はきつそうだなあと感じていました。

それが始まった時からじっかんしました。

さいしょにやるれんしゅうで六年だけやりなおしになったりしました。

ぼくは土曜日の午後からさむけがし日曜はねつがでたのでれんしゅうができませんでした。

だから月曜日は声を出して全力で五年とのしあい、コーチじあいをしました。

目標の声を出すはできたと思います。

県大会やファイナルカップで全力を出し勝ちたいです。

### 「夏合宿の反省と感想」

6年生 横島 拓朗

夏合宿では、声がたくさん出て、「パス」の声はできたと思う。でも、フォローがあまりできなくて、反省している。今年の夏合宿は、チームの気持ちがすごく盛り上がっていて、合宿前より声も出ているので、達成感があった。チーム一丸となって、大きくなって、強くなって、小学校最後の合宿は、仲よく楽しく大きくなった気がした。この調子で県大会は声を出して、パスを上手に回し、みんなでトライをとりたい。

### 「6年生親子対抗戦」

6年生 井上謙亮（父） 正敏

謙亮が入校後すぐ合宿に参加してからはや3年、早いものでもう6年生となりました。当時3年生だった子供たちが泣きながらタックルバックにぶつかっていた合宿を思い出しました。

その子供たちと6年生親子対抗戦で対戦しました。さすが6年生と思わせるプレーも随所にあり、感心致しました。そして一番心を打たれたのは真剣なまなざしです。親コーチ相手でも何とか点を取るぞという気迫のこもったまなざしを目の当たりにし、子供たちの成長を感じ、うれしく思いました。

最後の県大会です。県大会まで短い時間ですが、精一杯練習し、悔いの残らない県大会にしたいと思います。

コーチの皆様、父母の皆様、いつも有難うございます。これからも宜しくお願い致します。



「ありがとうございました」

6年生 齋藤 裕太の母

裕太にとって最後の夏合宿、私は初めて宿泊での参加でした。あつという間の3日間でした。最終日の菅平賞の発表…。裕太の名前を呼ばれたとき、何がおきたのかわからず…。次の瞬間には涙があふれていました。タックルどころか、ボールにも触れなかった裕太…。それが今ではタックルすることが楽しいと言うまでになった裕太。

コーチの皆様、ここまでご指導くださり、本当に、本当にありがとうございました。裕太には最後の県大会、全力で挑んで欲しいと思います。私はいつものごとく、彼が全力で挑めるように気持ちを上げていきたいと思います。これからもどうぞよろしくおねがいいたします。

「最後(小学部)の菅平合宿」

6年生 佐藤公亮 母

菅平終わりました。公亮は最高の思い出『菅平の奇跡』を作ってくれました。今回は気持ちが違っていました。私の。昨年までの合宿への参加する事での不安は全くありませんでした。最高学年となり、甘えはなしということが、公亮は分かっていると思ったからです。

3年前、参加する時は、公亮も不安を抱えていたし、何しろ身体がまだ出来ていませんでした。小作コーチには冷たくないお茶を準備して頂いたり、沢山のお手間を掛けました。

今の公亮は、麻生ラグビーに育てて頂いたと思っております。チームとしてもみんなの成長をととても感じます。

これから、ミニ合宿→県大会→ファイナルカップと楽しみです。

麻生ラグビー最高！！

「夏合宿」

6年生 中司大也母 中司倫子

今年もコーチの皆様と合宿係の五年生のお母様方には、大変お世話になりました。

ありがとうございました。

今年は日曜の練習から応援に参加しました。早朝、菅平に到着し、グラウンドでガラガラの声で子供たちにげきを飛ばして下さるコーチの姿に、前日の厳しかったであろう練習を想像しました。

声をからし体をはってご指導いただきコーチの皆様には、ただただ感謝でした。

サニアパークでは、コーチが合流するまでの間、自分たちでアップ内容を決め、誰に言われるでもなく、大きな声を出し力強くあたり、気持ちを高めている子供たちの姿に、胸が熱くなりました。子供たちの成長がうれしかったです。

この合宿で学び成長した事をぜひこれからの生活、ラグビーに生かして下さい。

母達は、ずーっと応援しています。

最終日の親子試合にママ達みんなまで参加できたこと、良い思い出になりました！！

「小学部最後の合宿」

6年生 野川 真の母

今年の合宿は、私にとっても小学部最後の合宿となりました。昨年の合宿係としてのぞんだ合宿の達成感とはまた違った、充実感を味わうことが出来ました。校長はじめ、コーチ陣の熱心な指導のもと、子供達も精一杯頑張っていたと思います。そんな光景を多くのご父兄と一緒に見守ることが出来、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後の県大会、悔いが残らない様、今後の練習も頑張ってください。

「感動しました！」

6年生 萩原 睦 母

最後の合宿で、またさらにラグビー好きな息子に成長させて下さったコーチの皆様と仲間たちに感謝しています。

また子どもたちを陰で支えてくださった五年生のお母様方、ありがとうございました。

そして感動をくれた息子にも、ありがとう。

試合でも練習でも手を抜くことなく、積極的に声を出し、自信を持って動けるようになったこと、とても感じました。

親子試合では息子の前におたおたするしかなく、息子たちの成長に感動しました。(出るまでには夫婦でかなりもめたりもしたのですが)親子試合に出させていただき、息子の大きさを感じることができて本当に良かったです。新しい親子試合の機会を作って下さったみなさま、ありがとうございました。

さらに県大会、ファイナルカップと怪我無く、力が発揮できるよう、体調管理に心がけたいと思います。

#### 感謝の気持ち

6年生 萩原 睦 父

思えば、はじめてARSの見学に連れて行ったのは、ふるさと公園で練習しているときでした。とても大きいコーチの方たちを見てビビってしまい、全くボールに触ることもなくトボトボと家に帰ってきました。そんな睦が、一生懸命楯岡球を追い、懸命に(?)タックルにいくようになろうとは・・・。

今回の合宿では、スタッフの方々のご配慮をいただき、6年生チームのお手伝いまでさせていただきました。あらためまして感謝申し上げます。私自身、今回の合宿にかける意気込みはかなりのものでした。単純に息子を鍛えたい、そしてずっと見守ってきた6年生チームの力を体で受け止めたい、そんな思いがありました。自分で言うのもなんですが、全身で子ども達のがんばりを受け止めることができたと思います。そして、コーチの叱咤する声や、檄をとばす姿をみて、本当にこのスクールで睦がお世話になれたことを嬉しく思います。県大会、ファイナルカップに向けて、今後ともよろしくお願いします。

結びに、今回の合宿にあたり、マネージメントから運営まで、様々なサポートしていただいたお母様方や、スタッフの方々、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、子ども達は素晴らしい時間を過ごすことができました。

#### 「夏合宿」

6年生 濱田 透唯 母 濱田 玉貴

小学部最後の菅平は涼しい朝で始まりました。今年のはんびり土曜日の朝からグラウンドに立ちました。

菅平マジックなのか子どもたちもコーチ陣も日大グラウンドとは違う目をしていました。初日から全開の声だして最後までもつのかな…と心配の中みんな最後にはガラガラ声で頑張った証になりました。試合の日はみんな練習の成果をだすために一生懸命ボールにむかっていました。

最終日母たちもグラウンドに立つことになり短い時間でしたが向かってくる子どもたちの大きさを感じた瞬間でした。暑かったり涼しかったり5年生のお母様たちはさぞかし大変だったと思います。いろいろとありがとうございました。そしてコーチの皆様いつもご指導ありがとうございました。

#### 「夏合宿を終えて」

6年生 横島拓朗 母 横島 由紀

2年生の日帰り合宿を含め、5回目の菅平が終わりました。小学校6年間のうち、5回の海の日を菅平で過ごしたことになります。母は、2年の日帰り、4年の1泊、5年は係として、そして今年ももちろん菅平に行っていました。なんなんでしょう、この魅力。もともとアウトドアが好きではありますが、それだけではない何かがあるのです。残念ながら来年は麻生RSとしてあのグラウンドに立てないと思うと、何ともさみしい気持ちです。私なりに大きな声で挨拶し、お別れしてきました。

拓朗は菅平賞を1回もとれませんでした。でも、健康に恵まれ、小学校時代のはちきれんばかりのわんぱくぶりを毎年本人なりに発揮し、喜怒哀楽を楽しませてくれました。最後の夏合宿は、これまでたくさんの感動をくれた拓朗に、私からの「菅平賞」を進呈しました。大切に育ててくれて、いろいろ経験させてくれた麻生RSと、それを支えるすべての方々に感謝します。ありがとうございました。

## 5年生



5年生選手およびコーチ(in菅平サニアパーク)

### 意欲が伝わった5年生の成長

5年チーフコーチ 曾我 浩

5年生のみなさん、今年の夏合宿はどうでしたか？

ひとりひとりの目標は、達成できたでしょうか？

去年のような試合結果ではなかったけど、「声を出す」、「低いタックルを決める」、「ジャッカルをきめたい」など、それぞれの目標に近づいたことと思います。

今年の合宿で、みんなに共通して「良かった」と感じたことは、『意欲が出てきた』ことだと思います。

「うまくなりたい、〇〇ができるようになりたい」など、今までよりもコーチに聞く機会がたくさんありました。

逆に、残念だったことは、「もっと声が出せたのではないかな」と思います。

特に、仲間がミスをしたとき、ポジションがわからないときなど、「何してるんだ」と思うときがあったと思います。

一番大事なのは、その時に「何してるんだ！」といっても、仲間は責められたと思うだけで、次につながりません。

合宿中、仲間を励ましていた子もいたけど、曾我コーチは、そんなときに、仲間の声かけることが、もっとたくさんあったらいいと思います。

県大会までは、あっという間にやってきます。

「どんなチームとあたるのか」わかりませんが、「どんなチームになりたいか」は、自分達で決められることです。

もう、5年生です。「コーチの話をよく聞くこと」と、「自分達で考えること」の2つを一生懸命やれば、結果はついてきます。

県大会に向けて、これからも厳しい練習が続きますが、目標をしっかりもって、がんばろう！

ご父兄のみなさま。今回の合宿では、合宿担当で、自分の子供たちを見る時間が少なく、お手伝いの苦労は多かったことと思います。

どうもありがとうございました。

最終日、6年生との試合では、トライをとれなかったものの、何本取られても、あきらめずに低いタックルを決めていた5年生に、たくましく成長した姿が印象に残りました。

この意識と体験を、県大会まで持続し続けることができれば、良い結果が出せることと思います。

引き続き、応援よろしく申し上げます。

## 「合宿」

外岡 幸隆

今年の合宿では、「声出し」と「タックル強化」に加え、春以降の練習試合で課題であった「接点でのボール獲得」をテーマとして、練習+試合に取り組みました。

「タックル」は、基礎的な形(パワーフット、レッグドライブなど)は、出来てきましたので、ラインディフェンスなどの実戦的な練習メニューを行いました。2日目のジャンボリーでの上郷RS戦(6年生主体)、最終日の6年生との試合は、相手が大きいこともあり、ボール獲得できず、ディフェンスばかりの局面で、さながらタックル実戦練習のようになってしまいました。試合結果は大敗ではありましたが、大きな相手の下半身にしっかりヒットするタックルが随所に見られ、「大収穫」でした。「接点強化」は、これまで取り組んできたショットガン練習を更に細分化した練習メニューとしました。当たり、あばれ、しっかりとボール抑えるダウンボール、低く、味方+相手をパックし、レッグドライブするオーバー……。練習試合では、体の大きな6年生のパワーに押され、練習成果は確認できませんでしたが、秋以降の試合で、成果を見せて欲しいと思います。夏合宿を終え、6年とのミニ合宿を経て、秋の県大会に向かいます。接点強化の課題克服は道半ばですが、ディフェンス=タックルはだいぶ計算できるようになりました。神奈川県内強豪と互角に戦えるよう練習を積み重ねていきたいと思っています。

## 対外、対内試合結果

### ミニ・ジャンボリー

対川口ラグビースクール: 2-10 本○麻生 RS

対上郷ラグビースクール: 13- 0 本●麻生 RS

6年生との学年対抗: 11- 0 本●麻生 5年生

## 「夏合宿で思ったこと」

5年コーチ 上田博朗

今年で自身2度目の夏合宿でした。昨年から子供たちの成長がどれくらいみられるかとも楽しみにしていました。

サニアでの上郷RSとの試合ではわたしが敵対してもちょっとビビってしまうくらい大きな相手に、まったくひるまずディフェンスにこういう気持ちを見せてくれました。

翌日の6年生との試合でも、今までならテンションがなかなか上がりきらなかった相手でしたが、今回は本気で「2トライとるんだ！」という姿を見せてくれました。それも最後まで本当にあきらめずに。

菅平賞は全員がとても頑張っていた中で、今合宿の「強い気持ち」を特に体現してくれた‘とあ’に決まりましたがみんな本当によくやってくれたと思います。

5年生は人数こそ少なく秋に向けてケガ人が出ることに怯えながらですが、強い気持ちで乗り切ってくれるものと確信しました。結果にこだわらず充実した試合をしてほしいものです。来年はどんな合宿になるのか今から楽しみです。

## 「来年は6年生」

5年コーチ菅原

夏合宿直前、リコーカップでの惨敗を目の当たりにし、コーチ間で既に決定していた夏合宿練習メニューの見直しが課題となりました。コーチも半ば手探りで合宿でしたが、天候にも恵まれ、選手たちは新しい練習メニューに意欲的に取り組んでくれました。

今回、コーチ間での意思疎通に時間も掛ったのですが、全てのコーチは、選手たちに教えたことが沢山あります。ただ、週一回3時間の限られた時間のなかで優先順位をつけ、如何に選手に伝え浸透させていくか、コーチとしても常に見直し、新しいものを取り入れながら精一杯取り組んでいく所存です。

いよいよ、来年は最終学年。選手たちは、自分だけでなく下級生を引っ張る立場になります。麻生RSの伝統を受け継ぎ、立派な最終学年を務めてくれるものと、今から楽しみです。

## 「合宿二日目 サニアパークにて」

五年コーチ 小山田俊広

初戦は圧勝。第二戦は完敗。この二つの試合覚えていますか？第一戦はさておき、第二戦はなぜ1本も取れなかったのだろうか？キックオフの前、身体の大きな相手を見て気弱になってしまわなかった？でも、前半途中から君たちはなんとかしようと相手を必死で止めようとしてました。それからの闘志は素晴らしかった。点には繋がらなかったけどいい試合になったと思います。最初からその闘志を出せていれば結果は違っていたと思います。どんな相手に対しても勇気をもってぶつかれば普段の練習での一番良い状態が出せます。そのためには練習の積み重ねが大事！あの日の良い時を自分自身で思い出してみよう！

## 『成長を感じた夏合宿』

5年コーチ 米本

最終日の6年生との試合、今までの試合の中で一番感動しました。トライは取れなかったけど子供たちも少しは自信を持つ事が出来たのではないのでしょうか。

この試合直前の練習の雰囲気良かった事も良い試合が出来た要因だと思います。子供たちのテンションを上げ、やる気を引き出し、自信を持たせて試合に送り出してやるというのがコーチとして大切な事だと学ぶ事が出来ました。

また合宿中の練習では子供たち同士で「ハンズアップしよう！」などお互いに声を掛け合っていました。これも成長した点だと思います。

合宿の良かった点を継続し、県大会に向け子供たちと一緒に頑張っていきたいと思います。

## 「夏合宿の思い出」

5年 熊谷 優

夏合宿での思い出は上郷ラグビースクールとの試合、6年生との試合、最終日のランパスです。

上郷ラグビースクールとの試合の前に川口ラグビースクールとの試合で勝ち、次も勝てると思い、とてもはりきっていました。けれど、試合直前になったしゅんかん、相手のセンターがものすごく背が高い人だったので、びっくりしてしまいました。前半の途中からは、だんだん、みんなの気合いが入ってきて、後半では、何本もタックルをくりかえし、前半よりも相手を止めることが出来ました。

県大会では、この試合のことを忘れずに強ごうチームに挑みたいです。

6年生との試合では、上郷と同じようにたくさんタックルをたくさんしました。後半は前半よりもタックルが決まりはじめ、あまり点数は取られませんでした。ペナルティーでは、フォワードに來られても、みんなで止め、ラックにまで持ち込めました。そこから点は取られてしまいましたが、そこを課題にして、もっとジャッカルやオーバーを決めて、ボールをうばい取りたいです。

最後のランパスもみんなの課題だと思います。なぜなら、ボールは一定の人しか取らないし、ボールが回っていない人もいたからです。

来年は6年生なので、ランパスはもっとうまくなってると思いますが、合宿最後のメニューのランパスは、バシッと決めたいです。

### 「夏合宿の目標」

5年 齋藤 裕人

今年の夏合宿の目標は「低いタックルをする」ことでした。

サニアパークでの試合では低いタックルが半分しかできませんでした。でも1試合目のときにトライがとれてうれしかったです。2試合目のときの相手は6年生と5年生の合同チームとの戦いで、負けてしまって、とてもくやしかったけど、低いタックルや何回か攻めこんだから良かったです。

でも試合をしてこう思いました。低いタックルがまだ半分しかできていないし、県大会もあるので、もっと練習して、低いタックルをうまくになりたいです。

夏合宿最終日、6年生と試合をしました。負けちゃったけど本気でやれて満足でした。

最後のランパスをみんなですべて楽しかったです。来年は裕太みたいに菅平賞をもらえるようにがんばりたいです。

### 「合宿をふりかえって」

5年 小野 航大

今年の合宿の目標は、一つめは痛いと言わないこと、二つめは試合に出してもらうこと。

5月に骨折して、ほとんど走らないまま合宿だった。

でも合宿ではたくさん走ることができた。

一つめの目標はほぼ完ぺきにできたと思う。

二つめの目標も試合にだしてもらい、タックルもたくさんがんばった。

ぼくがタックルにいこうとすると、大きな声で「とめろー！」と聞こえてますます

もえてタックルにいけた。6年生のコーチも応えんしてくれてうれしかった。

6年生との試合でジャッカルをきめられてすごうれしかった。

県大会、優勝にむけてボックスのこうげきで点が取れるようがんばりたい。

### 「合宿」

海老原翔空

僕の今年の目標はみんなにパスを沢山することでした。パスを出すことはできたと思います。あと声だしも頑張りでたと思います。タックルのかくも出来たと思いますがタックルでパックと踏み込みができませんでした。そしてラインように頑張ってくせをつけたいです。

合宿でスクリーンを両側できるようになりました。そして誰にパスをすればいいかなどの区別が解ってきました。

僕は上郷に負けたのがとても悔しかったです。なぜなら低いタックルとオーバーができなくてラインが出来なかった事とポロポロ落ちているボールをとらなかつたからです。

菅平賞をとれた事がめっちゃ嬉しかったです。

6年生との試合でタイガがタックルしてくれて嬉しかったです。

### 「夏合宿」

5年 齋藤 岳

今年の合宿の目標は、オーバーとタックルでした。

試合で半分くらい出来たことは、オーバーです。

タックルは、試合では全然できませんでした。くやしかった。

もっとタックルとオーバーを試合などで、できるようにしたいです。

そのために、低く力強いタックルとオーバーをびびらずしっかりとできるように強い気持ちで練習を頑張りたいです。

## 「合宿」

田中孝樹

2012 合宿を振り返って 僕は昨年はけがをしていて、練習に参加できなかったのも、どれくらいきついのかがわからなかったけど、今回の合宿ですごくきついと、わかりました。僕は合宿に行く前全然眠れなく、合宿のいろんなことを考えていて、いつの間にか朝にたなっていて、バスの中で 4 時間位寝てしまいました。旅館に着いて、スパイクシューズを出そうとしたら、間違っしてレスリングシューズが入っていました。仕方なくトレシュで、練習しましたが、すごく滑ってしまいました。途中でお父さんが、スパイクシューズを買ってきてくれました。合宿が終わったら、手足肩いろんなところがいたくなりました。これからいっぱい練習して、秋からの試合に勝ちたいです。

## 「合宿」

山崎 太凱

ぼくが合宿を通して感じたことは、つらかったけど、楽しさと、ちょっと自信を持てたことです。つらかったこと、それは朝早くから起きて練習に行き、長時間の練習でした。

なかなかうまくパス・タックル・声だしがうまくできず、なやんでいました。

でもその中で進歩したと思ったのはタックルです。

前まではしっかり入れなかったけど、最終日の6年生との試合でしっかり入ったことが連発できたことです。

これはコーチやチームのみんながささえ、教えてくれたおかげです。

これからはしっかりタックルに入って、相手をたおし続けていきたいです。

最後にりょうや、いつもわからない事、まちがっていた時、ていねいにやさしく教えてくれたからタックルとかも入れるようになった。ありがとう！

また一緒にラグビーしよう。ジャカルタに遊びに行くからな。

## 「夏合宿の思い出」

5年 古田 空

合宿の思い出はたくさんありますが、特に心に残ったことは二つあります。

一つ目は、サニアパークで完敗した上郷戦です。相手チームには体が大きい選手が二人いました(6年だと思)。試合が始まったら、体が大きい選手がボールを持ってクラッシュしてきたのをみんな最初はタックルできなかったけれど、どんどんタックルに入れるようになったので、みんなの気合が伝わってきました。結果は敗れてしまったけれど、いい気持ちを持っていたのでよかったと思いました。

二つ目は最後のランパスです。最初はちゃんとみんなについていたけれど、だんだんおいつけなくてみんなは、「くうまでまわせ」と言ってくれたのでとても嬉しかったです。

来年は試合で全部勝ちたいです。

## 「合宿の感想」

5年 小島 稜

ぼくは合宿に参加するのが三回目なので、タックルをマスターする事を目標にして、菅平賞を取ろうと頑張りました。土曜日は午前中の練習はこなせましたが、休憩の時間にコーチにぼーっとしていると言われ、『大丈夫。』とは言ったけれど、やっぱり休んだ方がいいとすすめられて、コーチたちの部屋で、休ませてもらいました。練習の開始時間を過ぎていて、これじゃあ菅平賞は無理だと思いました。もうそれが相当ショックでした。でも、明日が試合だから練習しないと、出場させてもらえないと思い、グラウンドに戻りました。そして力強いタックルの練習ができて、目標に一歩近づけた気がしました。

日曜日の練習は試合があったので、朝練習だけで出発しました。そして帰ってきて、グラウンドでの練習を始めましたが、途中で頭を2回も地面にぶつけてしまい、お母さんやお父さんたちが声をかけてくれたこと

がうれしかったけれど、痛さで苦しかったです。椋耶君がどうやったら頭をぶつけないようにできるか教えてくれて、それもうれしかったです。

月曜日は6年生との試合で目標通り、タックルを2本を決めることができました。その時は皆に自慢したいほどでした。これから、タックルを力強く、低く、完全にたおせるように練習して、県大会で3年でも4年でも田園に敗れているので、今度こそ勝って、けりをつけたいです。

#### 「2012年夏合宿を振り返って」

5年生 津国 大喬

僕は今年の夏合宿に遅れて到着したので、みんなより練習時間が短かったが、それでも充実した2泊3日でした。

ジャッカルやオーバーで足をたくさんかくなど、フォワードとしてとても重要な技を教えてもらうことができた。

2日目の試合で、川口戦では10本-2本で勝つことが出来たが、ラックなどの接点でもっと、ボールを取れるようにしたいと思った。

上郷には大敗をしてしまい、オーバーで押し負ける・ボールに絡まれてボールを出すことが出来ず、相手ボールになってしまったことは今後の試合で克服できるようにしたいと思った。

また、自分の感覚では体力が少しついてきた事を感じている。

#### 「目標」

5年 森田恵一朗

今年も、去年に続いて楽しい合宿でした。

今回の合宿の目標は、「相手ラインとみかたラインを見て、ボールをまわすか自分でもちこむかの判断をすること」でしたが、試合などで何回かできました。

県大会に向けての目標は「低くて強いタックルをし、相手をあお向けにたおすこと」です。理由は、このごろタックルが弱いし、あたるところが高く、悪い場合は相手がたおれないときがあるので、それをかいぜんしたいです。

#### 「最後の夏合宿」

5年 向野椋耶

僕はこの合宿で自分の目標をたっせいできたと思います。

ずっとかたいだったタックルがこの合宿でうまくできたのが良かったです。

途中でけがをしてしまったけど、せいっぱい練習ができたと思います。

試合では一試合負けてしまったけど、タックルがたくさん決まっていたので良い試合ができたと思います。

ぼくは最後の合宿をとっても楽しくすごせたので良かったです。

麻生RSではとても楽しくプレーができたと思います。

三年半本当にありがとうございました。またきこくしてきたときに、みんなとラグビーができるのを楽しみにしています。

#### 「ここでだけ…」

5年 齋藤 裕人の母

麻生ラグビースクールに皆様、いつもお世話になります。

サニアパークでの試合、「上郷戦」では激しい当たりを見せてくれた裕人。本人は「半分しかできていなかった…」と言っていたが…、いやいや…、なかなかスイッチの入らないあなたにしたら、よくやっていたよ！でもやっぱり私は鬼母なので、「こら～！まだまだできるでしょ～！」とお尻をぺんぺん…。

本当は抱きしめて「頑張ったね！」と言いたいのですが、それは県大会で優勝するまでとっておきます！でもここでだけ言わせてください…。

「裕人、よくがんばったね！あんなに大きな相手に果敢にぶつかって行く裕人を見ていてお母さん、本当に感動してました！これからもがががんぶつかっていこうね！お母さん応援しているからね！」



### 「合宿を終えて」

5年 小野 航大 母 小野 桂子

今年も菅平と一緒に過ごすことができ、たくさんの感動をもらいました。

今年、合宿担当学年ということで、本当に大変でしたが、皆様のご協力のおかげで、なんとか無事に乗り切れましたこと、感謝申し上げます。

航大は5月末に骨折し、全力で走ることがないまま合宿を迎え、どうなることかと心配しましたが、やはり菅平の威力でしょうか、だんだんと走れるようになり、サニアパークの試合では、見事な走りからタックルを決めることもでき、本当に菅平の魔法だなあと感じてしまいました。

毎年たくさんの子供たちの成長を見ることができ、これも暖かく厳しく指導して下さるコーチのみなさまのおかげと、感謝しております。ありがとうございました。

### 「夏合宿を終えて」

5年 齊藤 岳 母

今年、合宿のお手伝いとして初めて最初から最後まで参加させて頂きました。主人もコーチとして、娘はお付き合い(?)で齊藤家全員での参加となりました。

早朝から夕方薄暗くなるまでの練習。皆、本当によく頑張りました。3日目のサニアパークでの試合は噂通り大興奮でした。特に上郷RSとの試合は自分達よりもかなり大きい相手に何度も何度もくらいついていく姿に胸が熱くなりました。

最終日、初めてのランパス。裸足で走ったグラウンドは思ったよりも広く気持ちよかったです……っと思ったのは一瞬で息は上がるし、足は止まるし(汗)……子ども達のタフさに感心しました。来年までには体力をつけておかねば。

岳がラグビーを続けてくれたことで、家族皆よい思い出ができました。岳、ありがとう。来年は小学生最後の合宿。楽しみにしています。

最後にコーチの皆様、合宿係のお母様方、本当にお世話になり有難うございました。

### 「合宿」

田中孝太郎

2012 合宿を振り返って 着いた初日の夜、力を持て余して、夜遅くまで盛りあがり、朝一から大騒ぎ、睡眠1時間の子供たち、翌日の練習で放心状態になる子供も、練習試合対上郷 対麻生6年生いずれもワンサイドゲーム完封負けでしたが、粘り強くタックルにいていたのが印象的でした。

私自信はコーチ戦を楽しみ、全員ランパスで、声を出しまくり、子供以上に合宿を楽しみました。

### 「もう一歩ずつ」

山崎太凱 父

合宿おつかれさまでした。3日目の2試合を現地で、4日目の6年生との試合をビデオで見せて頂いたなかで感じたことを書かせて頂きます。

ポイントでマイボールにできないことが多かった気が。

ボールを持った者がもう一歩進んで倒れてポイントをつくる。

フォローはもう一歩早くスタート、もう一歩早くオーバー。

一歩でも前へ進めば相手は一歩うしろに下がる。

タックルももう一歩前で、もう一歩押してから倒す。

相手よりも一歩でも早くボールにたどり着く。

みんなで意識して、9人で9歩前へ進んでマイボールを勝ち取りましょう。

### 「夏合宿に参加して」

古田 容子(5年 古田 空の母)

今年は今合宿係として兄の高1の時から5年ぶりに参加させていただきました。

今年5年生の人数自体が少なく、無事乗り切れるか心配でしたが、5年生母はもちろんのこと、他学年のお母様にも支えていただき、無事に終えることができました。ありがとうございました。

久しぶりの山光館はたいへんなつかしく、また、変わらないコーチの愛情あるご指導、子供達のそれにこたえようと必死に練習する姿に感動しました。

ついこの間まで幼稚園だったのに、もう3年生で合宿に参加しガッツあるタックルをしている子、急に大人びた6年生、親子試合、5年生が自分達よりはるかに体格の良い6年主体のチームに全員で向かっていったサニアパーク、といったように、目頭があつくなるシーンをたくさん見ることができました。

校長をはじめコーチのみなさま本当にありがとうございました。来年は最終学年。精一杯応援したいと思います！

### 「合宿」

小島 直美(5年 小島稜 母)

今回はじめて、母親として合宿にフル参加して感じたのは、稜の強い気持ちでした。練習中に涙ぐむことがあり、精神的に弱いなあとは思ったのですが、思ったようにできない自分に腹が立ったのだと思いました。今までの稜だったら、淡々としていて、気持ちを表にださなかったのが、心の中に熱い思いが生まれてきたのを感じました。

稜の弱くなりそうな心を、コーチの皆さん、5年生のお父さんお母さん、そして仲間たちに支えられ、励まれて、あきらめないで、最後までやり遂げることができました。ありがとうございました。県大会に向けて、合宿で生まれた熱い思いを持ち続け、相手チームにひるむことなく、立ち向かってほしいと思います。

### 「母たちの合宿」

5年 森田恵一朗母 森田康恵

5年母として特別な夏合宿。準備も整いあとは金曜日の出発を待つのみでしたが、私は不覚にも体調不良の状態で合宿に突入することになってしまいました。たださえ人数の少ない5年母なのに、現地では半分もお役に立てず、何とも情けない合宿係でした。

今から考えると気持ちばかり焦っていたなあと思います。と同時に、母たちという仲間のありがたさが身にしみた合宿でもあります。全部含めて忘れられない思い出となりました。

### 「合宿」

5年 向野椋耶母

毎年、親の手から離れた3泊4日で椋耶がどんな経験をしてくるのかが楽しみでしたが、今年もいろいろとラグビーのこともそれ以外のこともたくさん学んできたようです。

また、今回は5年母として合宿の裏方に触れ、改めてどれだけ多くの方々が毎年のこの合宿のために貴重な労力と時間を割いてくださっているかを感じ、月並みですが感謝の気持ちでいっぱいです。個人的には、息子のけがで、噂に聞いていた菅平クリニックに初デビューしたのも良い思い出となりました。

同行した娘も水鉄砲でたくさん遊べて楽しかったようです。

楽しかった思い出を胸に新天地でも良い風が吹くといいなあと思っています。

ありがとうございました。

## 4年生



- 4 列目：清水(翔)コーチ、田口コーチ、矢部コーチ、清水(賢)コーチ、猪越コーチ、古田コーチ、太田コーチ  
3 列目：千秋たける、熊谷しょう、小坂みぶ、野田りょうすけ、阿部りょうた、日笠そうた、奥川あさひ  
2 列目：上田むさし、吉田しゅんすけ、萬場こうせい、本田こうだい、飯島りょうた、児玉しょうご、山内たろう  
芝田ゆうま、山本コーチ  
1 列目：斎川なつお、角田しょう、安藤ゆうや、野村ゆうすけ、米元はると、太田けいご、宮坂えいと、  
原田けんしょう

### 「夏合宿を振り返って」

4年チーフコーチ 山本慎一

今年の合宿は、なるべく練習時間を多くするように心掛けました。タックル練習、セービング、オーバー等「痛い、練習が中心でしたが、子供たちはよくついてきてくれました。走ることは違うつらさもあったかと思いますが、良く頑張ってくれました。又、合宿ということを利用して、初めて声だし練習を行いました。恥ずかしさが薄れ、徐々に声が出るようになってきました。合宿で練習したことを一つでも身につけてくれたら、うれしく思います。

昨年同様、多数のご父兄の皆様にお手伝いをしていただきました。子供たちにとっては、何よりも心強かったと思います。ありがとうございました。合宿の成果を出すには、これからの練習が大事です。一致団結して頑張っていきましょう！

### 「夏合宿を終えて」

4年 サブチーフ 清水賢一

今年も例年通り、7月13日～7月16日までの夏合宿が終わり、四年生のみんなはどんな事を感じたのでしょうか。

夏合宿に入るにあたって、コーチ間がかかげた合宿での強化ポイントは2つでした。「強く一歩前へ出る」、「ディフェンスの強化」の2点です。結果は、攻撃面ではすごく良くなりましたが、ディフェンス面では練習もあまり出来ず、全体としてはもう少しということでした。しかし、試合では、セービングやオーバーの練習に時間を割いたこともあり、下のボール(いわゆるルーズボール)への動きやオーバーに入る速さ・勢

いはすごく良くなりました。

夏合宿後、この調子をキープしつつもう少しレベルアップして、その先に待っている県大会で良い成績で終われる事を期待しています。

#### 「夏合宿」

4年 サブチーフ 古田十

今年もやってきました菅平。長男と一緒に入れさせてもらってから、数えてみると8回目になるでしょうか。子供たちがどうかはわかりませんが、少なくともラグビー経験のあるコーチたちにとっては菅平は特別な場所なので、行く前からとてもテンションが上がります（高校のときはあの菅平のダムを見るとテンション落ちましたが・・・）。

今回の私の合宿の目標は「激しく、ただやり過ぎず」。この激しくとやり過ぎずの頃合いが、特に中学年は難しいと感じます。低学年でもなく高学年でもなく、子供っぽいのもいれば大人っぽいのもいて、それが24人もいて・・・もうちょっとやりたかったなあ、というのが正直な感想です。練習時間が短い、サニアパークで一日使ってしまうし。スクールとしても様々な課題が見えた合宿でした。ぜひ来年につなげていきたいと思います。

4年生のお母さん方、「One for all all for one」の精神で、来年は全員でよろしくお願いします！！

#### 「夏合宿を終えて」

4年コーチ 猪腰咲太

今回の夏合宿で麻生ラグビースクールのコーチとして一年になります。昨年の夏合宿中は旧3年生のチームも目標やチーム特性も知らず、がむしゃらに教えていてコーチとして意味をなさなかったと思います。それから一年間、日大での練習や試合で子ども達の性格やプレイスタイルをみて、また休憩の時間には子ども達と遊んで仲を深めたりしてたくさんの弟が出来たかのように思えました。

今年の合宿ではコーチ丸となってタックルの上手な学年を目指し、目標を掲げ、昨年よりもコーチらしい仕事が出来たのかなと実感しています。

コーチとして僕自身が教えられることは限られています。ですが私は麻生ラグビースクールの卒業生、そこで学んだのは単にラグビーの知識や技術だけではありません。辛い練習を乗り越えて試合に勝ったとき、仲間やコーチたちと喜び合えた経験は今では僕の力になっています。そういった合宿での思い出や試合での悔しさをこの合宿で少し伝えることが出来たと思います。

夏合宿終えてまた一段と強くなった4年生たちと県大会優勝を目指し、また共に成長して行きたいと思っています。

#### 「続・夏合宿の思い出」

4年コーチ 清水翔太

今年の夏合宿では、学年全体として、オフェンス・ディフェンス問わず「前にでる」ことを意識しました。Bチームの対長野RS戦では、菅平賞を獲得した雄也をはじめ、キックオフやスクラムからのディフェンスに大きな進歩が見られました。他の試合でも、セービングやオーバー等、練習で頑張ったことを試合で活かそうとするシーンが多々見られ、そのような姿勢はコーチとして非常に嬉しく思います。

自分が麻生の4年生だった頃を思い出すと、とにかくキツかった記憶があります。怒鳴られている記憶しか浮かんでできません。それでも、楽しかったと振り返ることができるのは、厳しい練習の果てに、試合での勝利や、その年の県大会優勝があったからだだと思います。干支が一つ回っても、世代を問わずこの気持ちは不変です。

現在の4年生も「勝ちたい」「優勝したい」と口にするのが多くなりました。その願いを叶えてあげられるよう、尽力していきたいと思っています。

## 「4年生夏合宿を終えて！」

4年コーチ 矢部孝徳

今年、4年生の合宿は人に対する強さの強化を徹底的に追求したかったので、そのことに関しては合格点に達したのではないかと思っています。もう1つの課題は声出しの練習、これは今後ともいつも強化すべき問題です。

Aチームの対江東戦ゲームは久しぶりに緊張感の有るナイスゲームでした、子供達も少しずつ接戦の緊張感を体で覚えていると思いました。県大会までにはマイボールのキープ力をもっと伸ばして行きたいと思います。

最近は短い合宿となってしまっていますが、良い仕上がりがだったと思います。ますます今後が楽しみです。

## 「合宿に参加して」

4年 安藤雄也

僕の今年の目標は、『低くて強いタックルをすること』と『ターンオーバーをされないように、オーバーをすること』でした。合宿の試合では、自分たちのキックオフの時、前に出てプレッシャーをかけることが出来ました。それから、チームメイトをフォローして、パスをもらって、トライすることが出来ました。ボールを持ったとき、まわりを見ることも出来ました。コーチから、「タックルのお手本を見せてあげて」と言われてうれしかったです。そして、身長が低い自分でも、いっぱいオーバーしたり、タックルしたりして、念願の菅平賞をとれたことがとてもうれしかったです。ただ、大和戦では、タックルしても相手をたおせなかったことがぐちゃかったので、これから百発百中で相手をたおすことを目指したいです。

## 「初めての夏合宿」

4年 飯島亮太

1日目の練習で、セービングと、タックルが前とくらべて良くなりました。2日目の試合では、タックルはまあまあできたけど、セービングは、ボールが自分の目の前にあるのにできませんでした。だから、これからの練習と試合でうまく決められるように頑張りたいです。最後のランパスは辛かったけど、夜のバーベキューと花火は楽しくて良い思い出になりました。

## 「辛かったけど楽しかった夏合宿」

4年 上田武蔵

初日は楽しみだった夏合宿でしたが、練習が辛くこれからどうなるか不安で、絶望していました。でもセービングをする練習が楽しくて、安心してきました。一試合目は圧勝でしたが、二試合目が引き分けという結果になりました。前半2点取られましたが、後半2点取り返したので、よかったです。個人的にはひとりで行ってしまうことが多かったので、次から直したいです。最終日はランパスですごく辛くなりましたが、歯を食いしばってやりました。終わった時は「は～」とため息が出るくらいでしたが、みんなと寝たりして楽しい合宿となりました。

## 「夏合宿」

4年 太田佳吾

ぼくの夏合宿の目標は「タックル」でした。合宿前のしあいよりはタックルができていたと思いますが、もっとタックルをして相手をとめたかったです。それと声と気合がなく大和戦で負けたので県大会ではもっとタックルをして、声と気合でも負けられないようにしたいです。

## 「夏合宿の思い出」

4年 奥川朝陽

夏合宿の思い出は、江東ラグビースクールとの試合です。江東ラグビースクールはディフェンスの時は前にすぐ出てきていたので、自分達は前に進みにくかったです。自分達も県大会では、前に出て勝って優勝したいです。BBQや花火も楽しかったです。

### 「夏合宿でがんばったこと」

4年 熊谷祥

サニアパークに行って試合をしました。1試合目のつるとの試合で思ったことは、声が少なくてしずかな試合でした。2試合目の大和との試合は、声も出ていて、いい試合が出来たと思いました。ぼくが合宿でがんばったことは、セービングとタックルの練習です。セービングの練習はいっぱいやりました。セービングが合宿でうまくなりました。とびこむときに低く行くところが、むずかしかったです。タックルは、あたる時に、高く行ってしまいました。高いと相手がたおれないので、低く行くように意識して、タックルをがんばりました。県大会までには、合宿でやったことをいかして、がんばりたいです。優勝したいです。

### 「合宿に参加して」

4年 小坂海歩

わたしは合宿の試合で、トライを2本とることができました。合宿の少し前の試合で、初めてトライをした時はBチームのコーチやおとうさんに見てもらえなかったけど、この合宿でコーチとおとうさんにトライを見てもらえて本当にうれしかったです。この合宿では菅平賞を取れなかったから、来年は絶対に取りたいと思います。

### 「夏合宿の思い出」

4年 児玉将梧

ぼくの合宿での目標は、ひざより低く強いタックルをすることでした。練習の時は思うようにタックルができず、パックもしっかりできなかつたけれど、試合では、相手のペナルティの時に素早くタックルをしに行くことができたのでよかったです。逆に、練習では上手くできていたセービングが、試合では見てしまって全然できなかったので残念でした。チーム全体では、合宿前と比べてみんながすごく声が出るようになった事がよかったです。合宿後も、菅平で習ったことを生かした練習をして、県大会で力を発揮していきたいです。

### 「夏合宿に参加して」

4年 斎川夏央

去年は、二しあいの内一しあい負けちゃったけど今年は全しあい勝ててよかった。今年は熱を出してしまって月曜日に練習を休んでしまったから、来年は熱を出さないようにがんばりたい。夏合宿の目ひょうのトライはできなかったけど、相手のボールにからんだり、ターンオーバーができたからよかった。来年もがんばりたい。

### 「合宿で出来たこと」

4年 野田怜佑

合宿できたから、試合のときにオーバーが10回以上出来てよかった。県大会にむけて、タックルも練習したい。

### 「夏合宿で学んだこと」

4年 野村雄亮

僕は、夏合宿の練習で色んなことを学びました。1つ目は、指示の声をたくさん出して仲間に作戦を教えその作戦でトライをとったり、相手を止めてマイボールにしたりすることが大切だということです。2つ目は、仲間のだれかが、突破したら外側にフォローすることです。内側にフォローしてパスをもらっても相手はタックルしやすいけれど、外側だとタックルされにくいし、かわせばトライもしやすいからです。このことは、1試合目の時はできなかったけれど2試合目の時にはできました。なぜかという、1試合目にできなくて悔しくて2試合目には絶対にやってやると思っていたからだと思います。

### 「2012菅平合宿でできた事」

4年 原田健匠

僕は菅平合宿では、練習やランパスはとてもきつかったし長かったように感じた。でも、試合では勝つことが出来たし、良いパスを放れて「パスのコントロールを上げる」という最低の目標は達成できたように思える。練習や試合以外では、学校で勉強した星をいっぱい見ることができて一層すごいと感じることが出来たし、バーベキューも自分たちで初めて焼いて楽しく食べてとても美味しかった。(花火もとてもきれいだった。)練習はとてもきついけど、来年も頑張りたい。

### 「初めて思いっきりできた合宿」

4年 本田昂大

ぼくは、3年生の時足をけがして、ほとんどできませんでした。でも、今年の合宿では、思いっきりできたので、うれしかったです。つらい時もあったけど上手くできた時は、すごくうれしかったです。ぼくは、合宿に行くと、こんなに色々な練習ができる事を知りました。今度の県大会で優勝できるように頑張りたいです。

### 「夏合宿のしあい」

4年 萬場康生

ぼくは、夏合宿のしあいで強い相手だとかならずつかまるので一つ一つラックをつくってあいたスペースに行ったらトライができることが、分かりました。長野とのしあいでは、よくぬけたけど、大和戦では、あまりぬけませんでした。一つ一つラックを作ってじゅんめじゅんめでせめていって、あいたスペースをぬいていきたいです。

### 「合宿の思い出」

4年 山内太朗

合宿ではれん習がとてもきびしかったです。あと、あまりねれなかったときがあってつかれました。しあいでは、3トライできたけど、もっと声を出してもっとトライしたかったです。あと、タックルがうまくできなかったときにトライをとられてくやしかったです。けん大会ではうまくタックルをできるようになりたいです。

### 「夏合宿のはんせい」

4年 横尾瑛

夏合宿の練習の時はみんなで声を出していましたが試合の時は声が出なくなりコーチにおこられました。二試合目はいままでより声が出るようになったとおもいます。これからは県大会に向けて大きな声を出してがんばります。

### 「麻生ファミリーの一員として」

4年 飯島亮太の母 飯島恭子

入校して1年足らず、親子ともに初めての夏合宿参加させていただきました。少子化、核家族化、人と人との繋がりが希薄になりつつあるこの時代に、大人子供併せ100人を超えるチームの一員として、泊りがけで何かに取り組む、それがラグビー！しかも菅平で！なんて贅沢な経験でしょう。

息子もその貴重な機会をものにしよう頑張ることができたようです。家族も2日目朝から菅平入りし、鼻血(涙もね)がでて、戻って果敢に突っ込んでゆく姿、3日目の試合での大きな声、対外戦初トライ、ナイスタックルも見られました。最終日には、夏風邪の症状が出始めていたのでしょう「なんか体が重い」といいながら日程は最後までこなし、山光館に戻り着替えた頃には動けなくなるまで頑張った(過ぎた?)息子を誇りに思うとともに、導いてくださった皆に感謝、感謝！です。帰宅後、熱がひかずにぼおとした頭で「パスしなきゃ」と起き上がり、真夜中に枕をパスしてくれたことも、初合宿の思い出になることでしょう。ラグビー漬けの4日間で成長した証、頑張り通して得た自信は、今後グラウンド上で出されていくことと楽しみにしております。

誠心誠意お世話下さった5年生のお母様方、この夏合宿はもちろん、今春からは土曜練習も始められ、より多くの時間とお力を注いで下さっているコーチ陣、幹部の皆様にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ありがとうございました。各学年サイドで子ども達を支えたご家族の皆さんもお疲れ様でした。



ターンオーバーのチャンス！



ボールを持ったら前に出る！



沢山練習したオーバー！



ランナーは隅！周りはフォロー！



前に出るディフェンス！



## 3年生



左段上から 原田コーチ・飯島コーチ・萩原(父)・野田コーチ・井上コーチ・濱田コーチ・大森コーチ・神下(父)・斉川コーチ・加賀コーチ  
中段左から 萩原起・都留光平・神下弘太郎・村松京弥・小高佑・海老原銀次・齋藤佑気・京屋洸琉  
下段左から 竹川コーチ・都留茉奈実・無田快・中島知己・竹川正剛・河瀬孔太郎・原田太陽・宮澤樹・濱田昂輝・宮澤コーチ

### 夏合宿を振り返って

3年 チーフコーチ 濱田正行

今年の夏合宿は3年生として初めての正式参加、私自身4年目の夏合宿でしたが今回は雨も少なく、非常に涼しい中で練習をこなす事が出来ました。

ほとんどの子供達がバス移動と言う事もあり、なれない初めての合宿で若干心配していました。しかし私達の心配をよそに道中の子供達はバスで上映されていたクレヨンしんちゃんに夢中で疲れも見せず元気一杯でした。

今回も夏合宿前に3年生コーチやパパコーチ、お父さんにも参加して頂いて打合せ(飲み会?)を行い、意見を出し合いました。足りないのはハンドリング・トップスピード等色々ありますがやはり「タックル強化」でまとめ、重点的に練習を行う事としました。

また、コーチとして親として3年生の「やる気」スイッチを入れる為に子供達を追い込もう!と言う事になり、コーチ陣で結束を固めて合宿に挑みました。

コーチ陣としては今まで通りの3年生コーチ陣の他、竹川・原田・宮澤コーチに参加して頂き、熱心な指導をしてもらいました。(恒例の熱い竹川塾もありましたね)

試合を含めた3日間の練習は非常にきつかったと思います。練習や試合で涙を流しながら頑張っていた子供達も沢山いました。試合結果としては今一步でしたがコーチ全員の意見としてレベルが一段上がったと確信しています。その後の夏合宿後最初の練習では自分達から声を出して仲間を鼓舞する姿も見られました。

また、練習以外の時間でも仲間意識が深くなったと思います。皆で仲良く美味しそうにバーベキューを食べている姿が印象に残っています。(おかわりも沢山しました)

ちなみに来年も・・・

忘れ物係： 齊川コーチ

花火係： 飯島コーチ

総務(宴会係)：野田コーチ

で行きます！

最後に大きな怪我も無く、子供達を家に帰す事が出来て良かったと思います。

今回合宿をお手伝いしてくれた5年生のママ達を含め、お手伝いしてくれた沢山の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

来年もよろしく願います！

### 3年生の夏合宿

3年サブチーフ 野田卓人

3年生にとっては初めての夏合宿。バスでは黒川駅を出てから山光館に着くまで、ずっとハイテンション。家族と離れて寂しくなる子が一人位は出るかと思っていましたが、完全に全員が遠足気分。

翌日は分刻みのスケジュールかつ、出来るまで何度も繰り返すといった子供たちにとっては今まで経験したことのない練習。初日の練習から涙する子が続出。それもそのはず、他の学年のコーチからも「3年生の練習は他の学年よりハード」と言われるほど、きついメニュー。でも、たった1日でもそれをやり遂げることが出来たから、翌日のサニアパークの試合で、体が自分たちより一回りも大きく、パス、ラン、タックルすべてが上手な相手に対して、最後まであきらめることなく、自分たちで声をだして食らいついて行くガッツが身に付きました。

合宿でクリアして欲しいと思っていた課題を子供たちは見事にやり遂げてくれたと思います。夏休み明けからの練習では、夏合宿で身につけたスキル、モチベーションを更に高め、県大会に臨みたいと思います。

### 初めての夏合宿を終えて

3年生コーチ 斎川 宏

スクールで夏合宿に参加するのは初めてです。

合宿を支えられた各ご担当者の方々には感謝いたします。ありがとうございました。

子供達も3年生になって、正式な初めての夏合宿。みんな一生懸命頑張っていました。良い経験になったと思います。合宿後、目に見えての結果、あるいは効果の程は別として、経験した事が重要だと思っています。休みを挟んでの夏の練習から9月の交流戦、県大会へと巧く繋げて行きたいと考えています。

### 夏合宿を終えて

3年コーチ 井上 正敏

初めての夏合宿、みんなはどうでしたか？いつもの日大グラウンドの練習に比べて、キツイ練習も多かったと思います。それでも、みんながんばって最後まで練習をやり遂げました。コーチはすごいと思いました。サニアパークの試合でも、4年生相手の試合もありましたが、最後まで向かっていく姿勢にみんなの成長を感じました。夏休みが終わるといよいよ県大会です。サニアパークで見せた、向かっていく姿勢/あきらめない気持ちを忘れず、県大会もがんばろう。

最後になりましたが、ご協力頂いた父母の方々のおかげで、無事合宿を終えることができました。有難うございました。これからもご支援の程、宜しくお願いいたします。

## 2012年・夏合宿に参加して

2年コーチ 竹川

まず初めに、合宿担当のお母さん方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

いつも大変お世話になります、2年生サポートコーチ・竹川です。

今年も菅平にやってきました。麻生RSにお世話になり早7年、今年で6度目の菅平です。息子の正剛(3年生)も5回目の菅平合宿となり、すっかりラグーマンらしく(?)なってきました。

毎年、低学年を引き連れては低学年コーチとして夏合宿限定の”竹川塾”を開講し参加しておりましたが、今年は息子が3年生ということで、例年の低学年コーチではなく親コーチとして3年生の練習をサポートさせていただきました。日頃は私が大阪単身赴任ということで息子とは一緒に過ごすことも、ラグビーを教えることも中々できずにおりましたので、今回の夏合宿は”トコトン”やってやろうと思っておりました。

今年には本当に天候に恵まれました。暑くもなく、寒くもなく、雨も少なく、程よい風であり、本当に気持ちよかったです。

今年も、テーマを決め合宿に望みました。3週間前に夏合宿に参加されるコーチと打合せ(飲み会?)をして決めました。そのメインテーマとは”子供たちを追い込む”ことでした。スキルとしては、『スィープ』、『タックル』、そして『声を出す!』です。

実は、これらはこの学年に今一番必要なことであり、そしてこの3日間で、トコトン追い込み、、、教えた、、、、つもりでした。

そしてエントリーしたジャンボリー大会に臨み、4試合も他県のスクールと試合を致しました。結果はというと、、、0勝4敗。

残念な結果ではありましたが、夏合宿中の練習の成果を証明できたかということ、私は”できた”と思っております。随所に良いプレーもありましたし、個人個人に成長は確かに見られました。ただし、麻生RSの最終目標である、”6年生で県大会優勝!”。この目標に向かって突き進む過程の中で、この3年生の夏合宿時に必要不可欠なことは?と考えると、、、、。(今すぐに結果を求めるのは早すぎかもしれませんが、)何が足りないか?について分かってきた感じです。

まだまだ伸びしろの多い、気持ち(心)の優しい学年です。目標に向かって、3位一体の精神で私も一親として盛り上げていきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

最後に、コーチ試合の件ですが、久々に楽しめました。つまり、大きな怪我もなく過ごせたということです。(安堵)

ガラガラ声の竹川より

## 夏合宿の感想

3年 村松 京弥

ぼくは、ラグビーの夏合宿で一番つかれた事は、最後にやった試合です。こうきに点を入れられそうになって飛びついてコーチにほめられてうれしかったです。つかれたけど楽しかったです。

来年は強くなって4年に勝ちたいです!!

たのしかったけど、ないたがっしゆく

3年 さいとうゆう気

れんしゅうはけっこうたいへんで、しかも1日2回れんしゅうがあったけどたのしかったけど、すがだいらしょうとコーチがくれるうでわがとれなくてくやしくてなきました。

## 夏合宿の感想

3年 京屋 洸琉

1, 2年生の時の合宿とは違って、つらい時がたくさんありました。

菅平賞が取れずにガッカリがったけど、自分自身ではがんばりました。

## 合宿

3年 宮澤 樹

三年生になって、始めてみんなと食事をしたり、ねたりして、すごしました。ぼくは8ぱんでした。

練習は、パス、タックルなどをやりました。朝ごはんは、練習場で食べました。キュウリと、トマトと、バナナと、パン(メロンパン、小倉パン、クリームパン、ジャムパン)と、牛にゅうでした。

一番つらかった練習は、タックルでした。

試合は、一試合目は十対〇で負けて、二試合目は七対五で負けました。どっちとも、タックルが弱かったと思いますので、もっとタックルを練習したいです。

一番楽しかったのは、十五日の、バーベキューと花火です。

## ラグビー合宿のこと

3年 河瀬 孔太郎

- ① ぼくはれんしゅうの中で1ばんつらかったのはタックルだった。
- ② へやではすごく楽しかったし、ほかの学年の人がやさしかった。
- ③ れんしゅうのコの字ダッシュもつらかった。

## 目ひょうを生かして

3年 萩原 起

ぼくの今年の合しゅくの目ひょうは、せいひく強いタックルをすることです。

合しゅくでの三年生の一番多かった練習はタックルと声を出すことでした。だから目ひょうをたっせいすることができました。すがだいらしょうはもらえなかったけど、目ひょうがたっせいできたからうれしかったです。

ぼくはその目ひょうをいかして、けんたい会で発きたいです。さいしょのけんたい会なので、ゆうしょうしたいです。

## 夏合宿

3年 竹川 正剛

「はげしくやる」が目ひょうでした。

しよ日、タックルもオーバーもスィープもできなくて、おこられました。次の日、しあいだからタックル、オーバー、スィープができるようにしようと思いた時に思いました。時計を見たら3時49分でした。同じ部屋のぎんじはねてました。6時になってトレーニングするところに行くと足をマッサージする物があって、それで足のうらをのせて「気もちいー」と言いました。ぎんじもやりました。

朝ごはんをグラウンドで食べてしあいをしました。だいいしあいは負けて、みんなで集まって、できたこと、できなかったことを話しました。

次のしあいの前に、竹川コーチから「わざなんかれんしゅうするひまがないから声を出せ。声だけは負けていても出せ」と言ってくれました。

しあいでは、声を出しました。タックルもオーバーもスィープもしました。だけど負けてしまいました。しかも、さい後のプレーの時に相手からボールを取ってトライをしました。あと鼻血も出ました。負けたけど練習したことを全部やりました。

今度はれんしゅうでも声を出してかちたいと思います。県大会もがんばります。

## 夏合宿の感想

3年 中島 知己

夏合宿は楽しかったです。目標の『タックルを低く入る』ということが出来ました。

練習メニューがいろいろあって、とてもいいと思いました。たくさん練習して、強いラグビー選手になりたいです。試合にもたくさん勝てるように頑張ります。

## 夏合宿

3年 都留光平

合宿でチームがえをしました。神下こうたろうとポジションがかぶり、一試合の半分しか出られませんでした。あまりボールが持てませんでした。ウイングは、あまりやったことがないから、もっと練習してうまくなりたいです。

仲間が走った時、すぐにフォローに行けるようにしたいです。合宿では、スィープのやり方が分かりました。タックルが少し強くなりました。もっと試合に出たいです。

## 夏合宿

3年 都留茉奈実

合宿では、いつもより早く起きなければいけないので、眠かったです。一日目の朝は、ご飯を食べすぎておなかがいたくなりました。

練習時間が長かったので、くたくたになりました。

けれども練習の後は、仲間とお風呂に入ったり、ご飯を食べたり、一緒に寝たりしました。それがとてもうれしかったです。

来年もまた合宿にいきたいです。

## 合宿

3年 海老原 銀次

合宿で頑張ったことは声を出す事です。前より出来ました。

試合に負けてしまったのが悔しかったです。

でもタックルを決める事が出来たのでよかったです。

楽しかったことは新しいタックルの練習です。

コーチへ

きつい練習もあったけど楽しかった！！ありがとうございます。

## 感想

3年 無田 快

すごくつらかったけどがんばれました。合宿の後の練習もがんばっていきたいです。

## 夏合宿

3年 小高 佑

合宿をしにすがだいらに行くときドキドキしていました。ついてはんのなかまを見たら心でこれならだいじょうぶだと思いました。

じっさい練習をするとめっちゃつかれました。し合をする時かとうと思ってもまけてしまいました。4年生になったら今の4年生とおなじくらい強くなりたいたいです。

## はじめての菅平

3年 原田 太陽

ぼくが夏合宿で一番ためになった練習は「2対1のタックル、その後にスィープをする練習」です。なぜためになったかという、じっさいに試合でそういう場面があってうまく「スィープ」できたからです

スィープがビシッと当たって気持ち良かったです。

はじめて菅平に行って天ねんの芝のうえのラグビーはいつもより気持ちよかったです。さいごの夜の花火はきれいでした。

来年も行くぜ、すがだいら！

## 夏合宿の感想

3年 神下弘太郎

試合には勝てなかったけど、すごくいいせいかが出て、すごくよかった。またいつか、今度は勝って帰って来たいと思います。

## 夏合宿を終えて

3年 濱田 昂輝

ラグビーの合しゆくに行きました。ぼくはタックルをしっかりできるように、強い気持ちで当たること、チームワークをふかめるために大きな声を出すことを目ひょうにして、がんばりました。

三日目の試合では、去年勝ったチームに負けてしまいました。ぼくは、タックルを決めることがそんなにできなかったと思います。

タックルを決められなかった理由は、ダッシュし始めることがおそかったこと、相手が走り始める前に止めることができていなかったことです。

秋の県大会までに、ぼくはタックルをできなかった二つの理由をクリアしたいと思います。そのために、できるだけ多くダッシュの練習をして、足が速くなるようにがんばりたいです。

終わりに、毎日、メロンパンをゲットできたことと、さい川チームしょうで、リストバンドがもらえたことがとてもうれしかったです。

## 感謝の気持ち

3年 萩原起 父

今回の合宿は、正直なところ6年生お手伝いということと、お兄ちゃん(睦)最後ということもあり、3年生にはほとんど顔を出すことができませんでした。起にとっては本格的な合宿としては初めてで、本人なりに緊張感をもって臨んだと思います。いつになく真剣な顔で練習していたのを、よしよしと思いながら眺めていました。人一倍負けず嫌いのくせに、試合になると体を張ったタックルができないのが起の課題ではないでしょうか。親の目で見ると、まだまだ全然出来てないと厳しい言葉ばかり出てしまいますが、本人にはがんばったようです。コーチの方々が、真剣に子ども達と相対している姿に、大変嬉しい思いでいっぱいです。子ども達は心も体も必ず強くなります！今後もよろしくお願いします。

結びに、今回の合宿にあたり、マネージメントから運営まで、様々にサポートしていただいたお母様方や、スタッフの方々、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、子ども達は素晴らしい時間を過ごすことができました。

## 夏合宿を終えて

濱田 和弘(3年 昂輝 父)

今年は、息子が3年生になって初めての本格的な麻生ラグビースクール式夏合宿ということで、昂輝ともども楽しみにしていました。実際に練習を見て、試合を応援できたのは一日だけでしたが、チームと昂輝の成長を間近に感じる事ができてよかったと思います。

試合では自分達よりも上の学年の対戦相手に対してひるむことなく、最後まであきらめずに頑張りぬいた事は、9月から始まる県大会を前に大きな収穫になったと思います。ディフェンスやダッシュ力、チームの連携等、まだまだこれから克服すべき課題はありますが、この合宿で息子のトライシーンや、ボールに絡むスキルの上達を見る事が出来たのは非常に喜ばしい事でした。

忙しいスケジュールの中、子ども達を熱く厳しく指導していただいたコーチ、スクールに感謝するとともに、9月から始まる県大会を父母として盛り上げてゆきたいと思います。

## ちょうせんする

3年 齋藤裕気の母

麻生ラグビースクールの皆様、いつもお世話になります。  
題名の「ちょうせんする」は裕気が学校で掲げた今年の目標です。  
裕気には発達障がいがあります。「ちょうせんする」はできないことがたくさんある裕気にとって普通に日々を過ごすことも「ちょうせんする」ということになります。  
そんな裕気にとって夏合宿への参加は大きな挑戦でした。  
今回の夏合宿でたくさんの挑戦をした裕気…。できたこともできなかったことも裕気にとっては大切な経験となります。経験が裕気の力になり、自信となります。  
3人兄弟の中で、リトルラグーマンの原稿を一番早く書き終えたのは裕気でした。そこには「たのしかった」と書かれていました。たった2行の文章ですが、この2行の文章を書けるようになるまで、毎日がんばってきた裕気です。その文章に「たのしかった」と書かれているだけで、合宿への挑戦は裕気の大きな自信となったと思いました。これからもいろんなことに挑戦して欲しいと思います。  
裕気のような子が生きていくには、たくさんの人に助けをいただかなければ生きてはいけません…。今回の合宿への参加にあたっては、コーチの皆様にはたくさんのご配慮をいただきました。3年生の保護者の皆さんには温かいお言葉をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。  
これから先もたくさんのご迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが親子共々よろしく願いいたします。

## 根性みせました！

3年 萩原起 母

年長の時から低学年合宿には参加していましたが、親と離れた初めての本格的な合宿に「朝起きれるかな」「わからないことあったらどうしよう」と不安を口にしつつ準備。それでも友達に会うと、元気に、振り向きもせずに出かけて行きました(母と妹、バスの窓に向かって叫ぶもむなく…)。  
合宿では、厳しい練習にも耐え、涙も見せず、頑張ったと思います。試合の結果は残念なものでしたが、大きな相手に向かっていく根性はみんなすごかったと思います。  
コーチの皆様、子どもたちを成長させてくださった四日間に心から感謝しています。これから県大会にむけて、よろしく願いいたします。  
また子どもたちを支えてくださった五年生のお母様方、ありがとうございました。

## 夏合宿の感想

3年 中島 知己 母

初めて合宿に参加いたしました。  
コーチの方々、合宿担当のご父母の皆様ありがとうございました。  
土曜日、日曜日と見学に行かせていただきました。子ども達は本当に頑張っていましたね…時折、コーチに指導を受け涙を流す子もいましたが、今回の合宿で経験したことが、やがて良い結果に結びつくことを願い、これからも子供を温かく見守り、励まして行きたいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。

## 夏合宿を終えて

都留光平、茉奈実の母 都留純子

合宿前、娘は女子ということもあり生活面が不安な様子でした。  
実際行ってみると娘は、女子の先輩に気遣っていただいたり、低学年男子を注意したりという部屋割りもよかったようで、とても楽しんでいました。  
息子は靴下を早速下駄箱に忘れていましたし、試合ではイライラする場面も多かったのですが、普段より厳しいコーチの声にもめげないという、一面を見せてくれました。  
仲間との楽しい時間で、厳しい練習も乗り切っていくのだなと改めて感じました。  
お世話になったコーチ、ご父兄の方々ありがとうございました。

#### 夏合宿後

3年 佑父 小高 聡

「夏合宿は追い込む」、コーチから事前に伺っていましたが、そのとおりかなりハードな夏合宿になったようです。それゆえ、乗り切ったことで自信がついたようで、苦手な練習も手を抜かず取り組むようになったように見えます。また、本人いわく、ラグビーもさらに好きになったとのこと。コーチ、父兄の皆様、課題はまだたくさんありますが、これからも、遠慮なくビシビシご指導ください。

しかし、「ラグビーは少年を男にする」といいますが、まさにその一端を見た気がしました。今後ともよろしくお願いします。

#### 前向いて

3年 神下弘太郎 母

今回の厳しい合宿を経験し、前へ前へ進む気持ちが少しずつ養われてきたと思います。コーチの皆様と、お世話いただいたご父母の皆様にお礼申し上げます。

声だして下がらずに前進だ！！



## 低学年



左⇒奥川煌星君・原田康誠君・芝田好輝君・小坂龍平君・中原侑温君・野田航佑君・斎川春朗君

### 「今年も暑い菅平！！元氣なりトルラグーメンが大活躍」

副幹事長兼幼稚園コーチ 牧野 義之

梅雨明けが心配された今年の夏合宿でしたが、自称「晴れの神様」私の参加で、例年通り「素晴らしい天気」となりました。その好天の中、サニアパークで行われたミニジャンボリーの試合で麻生のミルキーチームは、日頃の練習成果を十分に発揮し大活躍でした。素晴らしい芝のグラウンドで一生懸命走る子供の瞳には、夏の青空が写っているのか、キラキラと瞳を輝かせていました。早春のころにはまだまだチビっ子だった子供たちが、本当に大成長です！！次世代の麻生ラグビースクール、そして日本を担う若者として、今後一層の成長を期待したいと思います。がんばれ！！麻生のミルキーラグーメン！！

ご父母のみなさん、コーチのみなさん ご苦労様でした！こうしたお子さん、生徒の成長と一緒に共有し、35周年に向けて一層素晴らしい麻生ラグビースクール作り上げて行きましょう！！

### 「夏合宿を終えて」

二年生チーフコーチ 伊藤 信一

今年の夏合宿へのミルキーの部の参加は一年生から2名、二年生から5名、計7名の子供達が参加しました。(内2名が黒川駅発着のバスを利用してのフル参加)梅雨明け前にもかかわらず天候にも恵まれて練習、サニアパークでの対外試合と他企画まで無事に消化する事ができました。

事前のコーチ打ち合わせ(飲み)で、合宿テーマは“パス”と“タックル”に絞り、メニューを決めて合宿に臨みました。合宿では天然芝の素晴らしいグラウンド環境と、上級生の本気モードの雰囲気を感じて、そうさせたのか子供達は何時に無く？真剣な眼差しで練習に取り組んでくれました。普段の練習ではなかなか声の出ない子が大きな声で「パス！」(なんだ声出せんじゃん。)、時間を追うごとにみるみる上達して行く子供達、これが菅平、これが夏合宿なんですよ。

ミニジャンボリーでは3戦2勝の成果、最終日は仕上げのランパスを7本やり切ってくれました。逞しく成長してくれた子供達、本当によくやってくれました。

最後に合宿をサポート頂きました合宿担当のお母様方には大変お世話になりました。有難う御座いました。

#### 「夏合宿を振り返り」

2年生サブチーフコーチ 野村文雄

二年生&一年生の合宿参加の皆さん、保護者の皆さん、暑い中本当にお疲れ様でした。  
今年は二年生希望者に、2名の一年生を加えて合宿参加でした。  
合宿においては、合宿生活・練習・ジャンボリー交流大会・三年生との対抗試合を通じ、二年生の皆さんと2名の一年生は、本当によく頑張ってくれました。よく走ってくれました。  
十分、合格点をあげたいと思います。  
この経験は、秋の交流大会に絶対に活かされます。都合により合宿に参加することが出来なかった仲間たちにも、是非、自分の経験や良かったこと大変だったことを話してあげましょう。  
来年の合宿からは全員参加です。経験した皆さんが中心となり、チームを盛り上げて、楽しく激しくラグビーに取り組みましょう。  
皆さんの成長が、本当に楽しみです。

#### 「2012 菅平合宿」

2年コーチ 原田 泰治

今年の菅平合宿は、息子(4年生、2年生)共々、家族4人での参加となりました。  
昨年、初めて正式な合宿参加となった兄に続き、今年は弟も菅平デビューを果たしました。  
例年、兄に付き添う形で臨時コーチとしてお手伝いをさせて頂いていましたが、今年は6月に開催された多摩RSとの交流試合(醜いコーチの部?)で負傷した事もあり、低学年である弟の学年に付き添わせて頂きました。本来、この学年(2年生以下)は正式な対象学年ではありませんが、合宿の雰囲気、菅平の自然を満喫するには絶好のチャンスであると同時に、技術面でも多くの事を吸収できる場でもある為、子供たちも通常練習以上に気持ちが入っていたように思います。特に、今の2年生にはパススキルの向上を望む子が多いのですが、パスキャッチ(ボールキャッチそのもの)が苦手な子が多く、『パスは出来るがキャッチが出来ない』という課題を抱えており、パントキャッチ練習を重ねてボールへの恐怖心を払拭する事と、ボールの落下地点の予測ができればとの思いで、パントキャッチーランパスを繰り返し練習しました。  
初めのうちは、パントボールに全く触れられない子、ボールに触れていないのに顔だけ背けている子等いましたが、10分程度繰り返しただけでボールに触れられるようになり、全員がキャッチまで行えるようになりました。また、キャッチ後に直ぐにランパスへの移行する動作の習得も見事で、最終日のランパスでもその成果は十分に発揮してくれたと思います。  
また、普段はあまり交流の無い地域のスクールとの交流試合でも十分に練習の成果を発揮してくれたと思います。(結果は2勝1敗でしたが内容は充実していたように思います。)  
これから、秋の交流大会まであまり時間はありませんが、十分に期待を持たせてくれる内容であったように思います。(どうか、夏休みで忘れてしまわない事を祈るばかりです！)  
引き続き、宜しくお願い致します。

#### 「子供たちの成長を感じる合宿」

2年コーチ キム ソンウン

今回は低学年合宿参加2回目。高学年と同じ生活ができたので、全体としての合宿の運営が見えて、全ての活動に参加できて、より深く合宿と子供たちの動き・成長が理解できました。合宿の指導をサポートしながら午前と違った午後、昨日と違った今日の姿を見せる子供たちの変化をみて、子供たちの成長の強さを実感しました。  
私自身初めて2番のポジションでスクラムも経験したり、10分以上の試合参加を果たせたので(?)、また次もやってみたいという気持ちになりました。低学年を配慮して頂いた関係の皆様にお礼を申し上げます。

「はじめてのがっしゆく」

2年生 斎川 春朗

はじめてがっしゆくにさんかしました。れんしゆうしてるときはつかれた。へやはトイレがあつて、テレビがあつて、せんぶうきもありました。しあいのとき目があつていたかつた。しあいのあと山にいきました。たのしかつた。日曜日のよるバーベキューをしました。あと、花火もしました。がっしゆくはたのしかつた。

楽しい合宿は今回限りでっせ！ by 春朗の親父

「なつがっしゆく思い出」

2年生 原田 康誠

ぼくが一番なつがっしゆくでたのしかつたのは、1日目のランパスと日曜日の試合です。

りゆうはランパスでパスのコントロールが少しうまくなつたからです。

試合では3試合中、2試合で勝つ事ができました。まけてしまつた試合はくやしかつたです。つぎにきたときは、全部の試合にかちたいです。来年はもっとパスのコントロールをうまくすることと試合でランパスがつかえるようになりたいです。

「合宿でたのしかつたこと」

1年生 中原 侑温 なかはら ゆおん

合宿のしあいでトライができて楽しかつた。またランパスができるようになってうれしかつた。

「合宿に参加して」

1年 小坂龍平

2年生といっしょにれんしゆうして、たくさんしあいにでれてたのしかつた。ダボスやまにのぼつたのが、たのしかつた。

「ひがえりがっしゆく」

1ねん のだ こうすけ

ひがえりだつたけど、がっしゆくでいろんなことをまなびました。しあいがたのしかつたです。やまのぼりもたのしかつたです。らいねんはぜんぶがんばります。

## 合宿の夜

5年コーチ 上田博朗

2、3日目の夜、コーチの懇親会に参加させていただきました。  
土曜日は突然役不足ながら司会という大役を仰せつかりまして、ご期待に添うような進行ぶりも出来ずにはいましたが、幼稚園コーチのSさんの超個人的な猛烈キャラ？(笑)に助けられ何とか終わることができました。5年生のお母さま方もお疲れのところ合流していただき、いつも御一緒できないコーチの皆様とも交流を図ることができました。

翌日曜日は最終日のコーチ試合のメンバー発表などを中心に行いました。こういう機会でもないと各学年のコーチ同士の交流はなかなか図れませんね。わたしにとってはとても貴重な時間を過ごさせていただきました。ただ、コーチ試合の時はちょっと気持ち悪かったです。(反省！)

## 夏合宿 夜の部に参加して

5年 齊藤 岳の父

夏合宿お疲れ様でした。

合宿初参加ということで、不安と緊張もありましたが、大広間での夜の部は、そんな不安を一気に吹き飛ばしてくれました。

夜の部では、各学年のコーチ並びにご父兄が一人ずつ子供たちの近況について熱く語られました。皆さんの子供の成長を願う気持ちが、ほんとに強いものだ実感しました。私自身も想いをぶつけようと熱く語ったつもりでしたが、力が入りすぎてどうやら空回りしてしまったようです。すみません……。

とにかく夜の部は、普段グラウンドでお見かけするだけ、あるいは挨拶するだけしか出来ないコーチやご父兄の皆さんとわずかな時間でしたが、色々なお話が出来とてもよかったです。会社という世界しか知らないで人間ですので、「世界が広がった」と感じるとともに、ここは子供の成長の場であるとともに、自身も成長できる場であると感じました。

ほんとうに合宿に参加させていただき有難うございました。

## 夏合宿 夜の部

編集長、6年コーチ 毛利 昌康

夏合宿の夜の部は毎晩4,5時間費やすので、夏合宿の活動の中でかなり重要な要素を構成しています。

今年は、熊谷コーチが裏方として大活躍で、舞台のマネジメントと司会の一部を担当してもらいました。皆さんが、夜の部を楽しむ前の準備や、その後の後始末を最後までくもくとやっていた姿が外見からはなかなか想像できないがゆえに非常に印象的でした。また、今年は上田コーチが司会としてそつなく全体を良く盛り上げてくれました。今後も麻生ラグビースクールで重要な役割を担ってもらおう予感がしました。今年はさらに大きなサプライズがありました。それは齊藤コーチの大きな体を小さくまとめる個性あふれるパフォーマンスでした。どこまでが演技で、どこまでが地なのか判別不明のところはずばらしく、これにダグスのチーフ小坂コーチが異常なほど反応を示して外部に少し迷惑がかかるかと心配するほど盛り上がりました。

まじめな話としては、それぞれの学年毎に全コーチが反省や抱負を述べ、普段はなかなか出来ない学年間の相互理解も深まり、コーチ間の交流も進んだと思います。古参の矢部コーチが、伝統の重さを独特の表現で新人コーチたちに伝えたり、新たに参加したコーチたちの心意気も伝わってきました。5年生を中心とした母親の話も印象的でした。子供の成長にとって如何にこのスクールが重要な役割を担っているかを、飾らない言葉で具体的に話してくれ、みな感動しました。私を始め、何人かのコーチ達は涙を抑えるのに大変でした。今の学校教育は大きな問題を抱えており、わがスクールのように子供に対して大人が真剣に熱意をかけることが出来ない現状の中で、改めて我々の活動が非常に意義のあることを認識させられましたし、それが重要なだけに、その責任の重さも痛感しました。この夜の部のスタイルは、麻生ラグ

ビースクールの伝統となっており、現三浦校長の人間性が良い意味で強く反映されていると思います。これからは新たに入ってきたコーチたちが、良い伝統を生かしながら、さらに良い形にしていくことが重要であると思います。これまでの蓄積が大きく、大変重い伝統かもしれませんが、ぜひ若手や中堅のコーチたちが、将来の麻生ラグビースクールを担っていくという気概を持って取り組んでもらいたいと思います。

## 夏合宿試合記録

### [第6回 菅平ミニラグビージャンボリー]

サニアパークで開催された恒例の大会に参加し、日頃は接点のない各地のRSと腕試しに励み合計19試合に臨み、11勝7敗1分の結果を残しました。

試合は中学年、高学年の区分けで行われるが、事前には相手チームの学年が分からないため、結果は大勝・大敗が多くなりがちです。

#### <低学年:2年生>

麻生 ○40-25● かえで

麻生 ○55-10● 江東

麻生 ●10-60○ 常総

#### <中学年:3年生>

麻生 ● 5-50○ 常総(4年生)

麻生 ● 0-75○ 高崎(4年生)

麻生 ●25-35○ 都留

麻生 ● 0-95○ 江東(4年生)

#### <中学年:4年生>

麻生 ○80- 0● 栃木(3年生)

麻生 △10-10△ 江東

麻生 ○70- 0● 長野(3年生)

麻生 ○30-15● 都留

麻生 ○50-25● 大和

#### <高学年:5年生>

麻生 ○50-10● 川口

麻生 ● 0-65○ 上郷(6年生)

#### <高学年:6年生>

麻生 ○45-10● 山梨

麻生 ○85- 0● 長野(5年生)

麻生 ○30- 0● 盛岡

麻生 ● 0-70○ 布施

麻生 ○55- 0● 都留

### [麻生RS 夏合宿定例戦]

#### <コーチ戦>

三浦組(柿色) △10-10△ 牧野組(赤色)

前半は米元(柿)の力強い中央突破に続き飯島(赤)の鋭い切り込みで両チーム互角。後半は、萩原(柿)の機転の利いたターンオーバーで再びリードしたが、終了間際に古田(赤)が右すみに押し込み同点でノーサイド。次回の多摩戦が楽しみです!

ただし、終盤に中央左ライン際で矢部(柿)が低いタックルを喰らい脳震盪で退場。前後の記憶がなく心配です。

#### <学年対抗戦>

3年生 ●0-90○4年生

5年生 ●0-55○6年生

恒例の学年対抗戦は、上級生が力・技・スピードの差をこれでもかと思わせ付けた試合でした。しかし下級生の果敢な挑戦意欲には目を見張るものがあり、総合力では上級生が上回るものの、「気持ち」では互角の下級生が逞しく映りました。

#### <6年生親子対抗戦>

子供 △10-10△ 父(6人)+母(3人)

今年で3回目の親子対抗戦。今回は父コーチ8名(伊藤,井上,大森,大坪,菅原,萩原,濱田,宮澤)に母が10名以上が参加。そこで試合では常に「父6人と母3人」で構成することとし、頻繁に選手交替した。

前半は、まず大森コーチが父の偉大さ?を示すような中央突破で先取点を奪った。しかし子供たちは直ちに反撃に転じ、モールサイドを2本突いて逆転。

後半は両チーム互角の展開。これは、「父は子供にタックル禁止」、「子供は母にタックル禁止」という特別ルールに加え安全重視のゲーム運営によるもので、武井レフリーの迷判定が試合を盛り上げました。特異なペナルティーとして、子供が追い付けない父の独走に対しては「スピード違反」、コーチが基本を忘れたプレーをすると「恥ずかしいパス」、さらにコーチが子供相手にプレーを流すと「無気力プレー」と認定されました。

そして終盤、親チームが中央でペナルティーを得ると、萩原パパが左ライン際を走る野川ママにパスを出す。するとトップスピードで走り抜ける野川ママに子供たちは振り切れ見事なトライを奪われた。(母は「スピード違反」の対象ではない)

ノーサイド直前には子供たちの猛然たる反撃が続いたが、親チームは母を含めたディフェンス力で凌ぎ、同点で「親子不和」を防いだ。

## 2012年夏合宿の総括

幹事長 加賀

合宿に参加したコーチとお手伝いの父母の皆さんお疲れ様でした。以下に夏合宿の総括を報告します。

1. 参加者は小学生単独で、昨年より23名増えてピーク146名が参加しました。

| 日程<br>内訳 | 13(金) |  |    |    | 14(土) |     |     |     | 15(日) |     |     |     | 16(月) |     |      |
|----------|-------|--|----|----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|------|
|          | バス往路  |  | 夕食 | 宿泊 | 朝食    | 昼食  | 夕食  | 宿泊  | 朝食    | 昼食  | 夕食  | 宿泊  | 朝食    | 昼食  | バス復路 |
| 生徒       | 66    |  | 66 | 66 | 68    | 72  | 72  | 72  | 72    | 72  | 72  | 71  | 71    | 67  | 63   |
| コーチ男     | 17    |  | 19 | 20 | 27    | 37  | 40  | 40  | 40    | 42  | 41  | 40  | 40    | 28  | 20   |
| 母        | 7     |  | 7  | 7  | 8     | 10  | 11  | 11  | 11    | 20  | 14  | 10  | 10    | 13  | 7    |
| 父        | 0     |  | 0  | 0  | 0     | 1   | 3   | 3   | 3     | 5   | 3   | 2   | 2     | 2   | 0    |
| 子供       | 4     |  | 4  | 4  | 5     | 5   | 5   | 5   | 5     | 7   | 5   | 5   | 5     | 5   | 3    |
| 合計       | 94    |  | 96 | 97 | 108   | 125 | 131 | 131 | 131   | 146 | 135 | 128 | 128   | 115 | 93   |
| 去年       | 82    |  | 85 | 91 | 110   | 117 | 117 | 119 | 124   | 123 | 118 | 113 | 115   | 115 | 93   |

2. 行きのバスは、17時00分黒川出発で府中ICから八王子・圏央道経由で、途中上里SAで弁当・飲み物を配布し車中で食べ、予定通り21時20分に到着しました。  
帰りは13時出発、上里SAと狭山PAでトイレ休憩し、途中渋滞がありましたが、18時30分過ぎに帰着しました。  
バスは昨年に引き続き小田急バスを利用し、すべてトイレ付バス3台で車中ではDVDで楽しみました。
3. 宿は、専修大学スキー部と豊田自動紡織長距離部と同宿でしたが、人数が昨年より増えたため、女性はシダハウスを利用し、新館に子供4班と2・5・6年コーチ、旧館に子供4班と3・4年コーチで大広間に1年と幼稚園コーチで対応しました。
4. 天気は、初日宿に着いてから雨がりましたが、3日間とも晴天で小学校裏の山光館第2グラウンドで行い、梅雨の影響もなく柔らかな芝生を全面利用できました。
5. 花火は、武井・小山田・清水翔太・飯島・大坪コーチがグラウンドにて準備し、子供たちに喜んでいただきました。でも少しショボイとの声もあり、来年は予算を増します。
6. 夜のコーチミーティングは大広間を利用して開催され、ママたちも多数参加していただき、大広間の宿泊者もいることから23時前には終了し、その後は各部屋での2次会も開催されました。  
総務部は熊谷部長以下、渡部・米元・猪腰・野田・金コーチが担当していただき、初日は宿のあまり冷えていないビンビールが飲め、その後も缶ビール・チューハイと焼酎・日本酒と乾き物中心から缶詰なども増えて美味いつまみが提供されました。恒例のコーチ料理はBBQ時にカレーなどを作って楽しんでいただきました。  
会費は昨年同様ですが、お酒やつまみの事前購入などで黒字になり、コーチ会費に上納しました。  
また、各学年父母からのビールなどの差し入れを頂き、ありがとうございました。
7. 試合は15日にミニジャンボリーに参加し各学年最低2試合行いました。
8. コーチの試合は、16日月曜日の朝食中に12分ハーフで行い、校長率いる柿色チームと牧野副幹事長の赤色チームで萩原父のインターセプトからのトライで柿色が先制し後半赤色がゴール際での攻防から飯島コーチの同点トライで追い付き1対1の引き分けでした。
9. けが人は、向野君が手の指先の骨折や熱中症で1人が病院に行きましたが、心配されていたコーチの怪我はありませんでした。ただし、初日の寝不足で体調不良の子供が多かったです。
10. 宿での水分補給として麦茶をジャグジーにてサービスしました。  
また食事中は各班にコーチが1人入って、子供たちの食事状況を把握するようにしました。  
一昨年から着替え置場には各学年でまとめるように表示し、宿舎でのルールなどをまとめた「夏合宿のしおり」の配布効果もなく多くの忘れ物がありましたが、集合時間など良くできました。  
最後に夏合宿反省会兼打ち上げは7月22日に18人が参加して多満にて実施しましたが、反省項目は①往復全車トイレ付バスで3台のため昨年のように補助椅子の利用もなく、ゆったりでき好評。  
②最終日、渋滞を避けるため早出、病気で早退などの無断キャンセルで昼食10食以上が余る。  
③土曜日朝3時から起きて廊下を走り回り宿から何度も注意されるも、コーチがフォローできず。



就寝・起床時間の厳守と見回りの強化が必要。班長への事前の役割指示。

④3, 4年の母はできるだけ合宿に参加して合宿担当母の仕事を見て覚えて欲しい。

⑤宿での手洗い・消毒が必要。⑥宿での飲み物用コップの持参。

以上

## 編集後記

数年ぶりに夏合宿に参加し、子供たち、コーチ、親との絆も深まり有意義でした。多くの感動が詰まっています。今回は夜の部の記事を何人かのコーチに依頼しました。少しお酒の量が多すぎる、遅くまではしゃぎすぎという批判もありましたが、感動的な話もたくさんありました。今後この部分も改革が必要かもしれません。子供たちや親の文章はいつも純粹で感動的です。私を含め、コーチの部分がもう少しという気はします。反省。  
(編集長 毛利)

夏合宿に身を置いた後で、編集作業で子供たちやご父兄の想いを読み込むと、自分の担当学年でなくても、目頭が熱くなるものがあります。毎回たくさんの感動が詰まったリトルラグーマンの編集に携われることに感謝。  
(副編集長 野田)

今年は菅平に行けず残念な夏でしたが、子供たちは熱い菅平だったようです。  
(DAGS 小松)

今年の夏合宿でも、子供たちはたくさんを感じ、学んだことが十分に伝わってくる文章ばかりでした。読んでいて、子供たちの成長が感じられました。  
(6年 宇田)

初めて編集に携わらせて頂きましたが、子供1人1人が真剣にラグビーと向き合う姿勢に感動しました。  
(4年 清水(翔))